

29243  
Ta25

292.43-Ta25



1200500733568

ボルネオ事情概要

山霞紫甫著



始







臺灣總督府外事部調査第一百十本(一般部門第十八)

ポ  
ル  
ネ  
才  
事  
情  
概  
要

臺灣總督府外事部





292.43  
TA 25

臺灣總督府外事部調查第一百十六(一般部門第十八)

ボ  
ル  
ネ  
才  
事  
情  
概  
要

臺灣總督府外事部



發行所寄贈本



1009  
4

凡 例

- 一、本書は主として大東亞戦前に於けるボルネオの既往の状態を骨子とし、夫れに皇軍占領後に於て現に更生せんとしつゝある姿を添加して一應の大觀的描寫を試み、今後同地に進出せんとする者の參考に資せんとしたものである。
- 一、本書は時務の急に應せんとして、蒼惶の中に稿を取纏めたため、尙ほ不備の點のある事を惧れるのであるが、夫れ等に就ては更に他日稿を改めてその完璧を期し度いと思ふ。
- 一、本書は筆寫に代ふるに印刷を以つてしたるものに過ぎず敢て公刊せんとするものでない。
- 一、本書は佐多調査官輔導の下に囑託山霞紫甫の調査輯録したるものである。

昭和十八年六月

臺灣總督府外事部



ボルネオ事情概要

目次

第一節	ボルネオ大観	一
一	希望の國	一
二	期待し得る資源	二
三	開拓すべき資源	四
四	交通の不便	五
五	住民の様相	六
六	大東亞戦下のボルネオ	七
第二節	概説	二
一	位置、面積	二
二	地勢	三
(一)	山嶽	三
目次		一



三 地質構造……………二五

(二) 河川……………二五

(一) 構造一般……………二五

(二) 上部三疊紀層……………二六

(三) ジュラ紀……………二六

(四) 白堊紀……………二七

(五) 第三紀……………二八

四 氣象……………二八

第三節 種族と其の特徴……………二九

第四節 植物……………三三

一 植物の様相……………三三

二 地相による樹種の分布……………三五

第五節 動物……………三六

第六節 歴史……………三六

第七節 土俗的信仰と奇習……………三六

第八節 南ボルネオ(舊蘭領ボルネオ)……………三七

一 住民、舊政治形態……………三七

(一) 住民……………三七

(二) 舊政治形態……………三七

二 農業……………三三

(1) ゴム……………三三

(2) コアラ……………三六

(3) 胡椒……………四〇

(4) ガンビル……………四一

(5) 米……………四一

(6) その他の農作物……………四一

三 林業……………四一

(一) 一般……………四一

(二) 林産物……………四一

四 鑛業……………四一

1 金……………四一



2	鐵	.....	四〇
3	マンガ	.....	四〇
4	水銀	.....	四〇
5	銅	.....	四〇
6	錫	.....	四〇
7	白金	.....	四〇
8	クロミ	.....	四〇
9	モリブ	.....	四〇
10	蒼鉛	.....	四〇
11	アンチ	.....	四〇
12	石油	.....	四〇
	(1) 東部	.....	四〇
	(2) 平均	.....	四〇
13	石炭	.....	四〇
14	ダイヤモンド	.....	四〇
15	沃素	.....	四〇
16	水質	.....	四〇
五	貿易	.....	四〇

(一)	コブラ	.....	五〇
(二)	港別	.....	五一
六	交通	.....	五二
(一)	陸運	.....	五三
(二)	水運	.....	五三
(三)	無線	.....	五三
七	労働	.....	五四
八	主要	.....	五五
九	南ボル	.....	五七
(一)	一般	.....	五七
(二)	ボル	.....	五七
第九節	北ボル	.....	五九
一	舊政治	.....	五九
二	農業	.....	六〇
三	林業	.....	六〇
四	漁業	.....	六〇
五	鑛業	.....	六〇



六 貿易	.....	九六
七 交通	.....	九三
(一) 水運	.....	九三
(二) 陸運	.....	九三
(三) 通信	.....	九三
八 勞働事情	.....	九三
九 主要都市	.....	九三
一〇 北ボルネオの現在建設狀況	.....	九三
一 般	.....	九三
(一) 新軍政區劃	.....	九三
(二) 五州長官任命	.....	九三
(三) 北ボルネオの地名改稱	.....	九三
(四) 海軍、通信兩局設置	.....	九三
(五) シブ廳開廳式	.....	九三
(六) 舊通貨に代る軍票流通	.....	九三
(七) タチンの彩票好成績	.....	九三
(八) 正金支店開設	.....	九三
(九) 正金支店開設	.....	九三

第一〇節 北ボルネオ 其二 (サラワク)

(一) タチン丸就航近し	.....	八四
(二) 乙女部隊到着	.....	八四
(三) ジュート代用樹皮發見	.....	八五
(四) 故前田大將等の現地部隊葬	.....	八五
(五) 北ボルネオの華僑	.....	八五
一 位置、面積	.....	八七
二 建國小史	.....	八七
三 農業	.....	八八
四 林業	.....	九〇
五 鑛業	.....	九一
六 貿易	.....	九三
(一) 過去五十年に於ける趨勢	.....	九三
(二) 主要港別貿易	.....	九三
(三) 輸入	.....	九三
(四) 輸出	.....	九四
七 交通	.....	九六



(一) 陸運	六
(二) 海運	六

八 通 信	七
九 主 要 都 市	七
一〇 サラワクの回復状況	九

第一節 北ボルネオ 其三 (ブルネイ)

一 地 理	一〇四
二 歴 史	一〇五
三 産 業	一〇五
四 林 業	一〇六
五 漁 業	一〇六
六 鑛 業	一〇七
七 工 業	一〇七
八 貿 易	一〇八
九 交 通	一〇九
一〇 主 要 都 市	一一〇
一一 ブルネイ王國の近狀	一一〇

第一節 ボルネオ大觀

一、希望の國

ボルネオとはどんな國なのか、どんな島なのか、その包蔵する資源がどんなものなのか、よく判つてゐない國である。石油が豊富だとか、今に首狩人種が出るとか、ジャングルが物凄いと云はれてゐるものゝどんな價値のある國なのかは充分な調査がされてゐない。たゞ、今まで語られてゐるところから考察すると、相當の價値の高い、内蔵する力の強い國であるといふことは推察され、この未開の寶庫とされるべき存在は、今まで皇國が、

初筆に、開發すべきものとして天が皇國民に残して置いたものゝようにさへ考へられるのである。既設事業の患ひになるものは何もない。總ては未開で處女地として皇國民の開發に委されてゐるのである。どんな國土計畫を立てても自由である。基礎調査にしても、皇國が行つて着手すべきで、従來の文献といふものは皆無に近い。又あつたとしてもそれは歐米着色のもので、眞のボルネオを知るのよすがとならないのである。ボルネオは希望の國である。

大東亞の地圖をひろげて見ると、ボルネオは大東亞の中心のような位置に坐し四方交通の中樞點をなしてゐるのに、このボルネオといふもの



一 希望の國



は周圍の海岸が數箇所知られてゐるばかりで、開拓の多少行はれてゐるのは、東北岸地方の一部に過ぎない仕末でゐる。西歐はこれを植民地として眼の前の利益打算のみから施策採取を事として來た。素直な判斷で之に對してゐたのではなかつた。歪んだ觀方で悉くが、西歐人自己の利益のみから割出してゐた。今日のボルネオはその意義と重要性とを一變した。皇國にとつてボルネオは蠻地でない。大東亞新建設にとつての最も重要な資源の地でありその醜穢の地となつた。

ボルネオは猛獸毒蛇の跳梁する瘴癘の地と考へられて來た。しかしボルネオには猛獸は至つて少いし、種類も少なく一體に獸類は小型であつて凶暴でない。毒蛇の害は特に云ふほどでもなく、鱉は多少居るが、之も想像して語られるほど怪奇な存在でない。又、瘴癘の地とは云はれてゐても、デング熱、マラリヤを主とする風土病や、特殊の皮膚病が多少、他よりも多いといふ丈でこれも衛生改善さへ少し改善すれば、恐るべきものはなくなるのである。

赤道に近いので暑氣は相當に強いが、朝夕は冷え／＼するレスコールもあるし、極めて凌ぎ易い。たゞ濕氣は相當に高く水質があまり良くないのが難點であるがさまでの事は無い。皇國民には充分なる耐熱性が保證されてゐるのであるから、皇國內地にあるよりも多少能率を低めねばならぬといふに過ぎない。

## 二、期待し得る資源

従來はボルネオの物産は英、蘭との本國關係から割出して決定され施策されて來た。石油にしても、ゴムにしても、コブラにしても、胡椒、香料にしても、たゞ手取り早く入手し得て、利用に便するもののみ重點を置いて

てゐた。石炭、鐵、卑金屬等にあまり關心を持たなかつた様に見えるのは、今、直ちにそれを切要とするに至つてゐなかつた丈で、それ丈に調査にしても眞劍味の薄いものであつたとなし得る。現に水銀鑛山の發掘にしても五十年前に一度着手されたのであるがいつの間にか、これを放棄して、ジェルトンなどのチューインガムの原料に熱中する様になつてゐた。パイナップルの栽培を奨励してゐたのは、舊シンガポールに於けるパイプ工場の原料入手の必要からであつた。だからして、住民の爲には一刻も餘裕の出來ない筈の、米、玉蜀黍等の農耕や、近海の水産には全然關心を拂はず、それらの食糧に對してさへ高價な輸入米を當て、恬然としてゐたのである。かういふ状態と條件とを基として作られた統計であり報告であつたのであるから従來の資料を通してボルネオを知らんとするには、相當な用意を以つてかゝらないと正鵠に遠いものとなる惧がある。そして、この誤つた行き方を訂正する所に調査の第一歩が置かれねばならぬのである。其の上、既述した様にボルネオに於て多少とも開拓が試みられ、實狀に近いものが判明してゐたのはその東北部の北ボルネオのみに過ぎない。従つてボルネオに調査を開始し、施策を試みようとするに當つても、北ボルネオに本據を置いて、こゝから發出せらるべきものである。今、主要なる焦點的の事項を擧げると次のようになる。

(一) 北ボルネオに於ける最大の産業はミリ、セリヤの油田である。年産百萬噸を超えてゐたもので、大東亞戰で放火破壊があつたが、復舊建設部隊の献身の努力によつて驚異的な復舊、新建設に成功しつつあるので、殊に將來のある油田としてはセリヤ油田の優良豊富さは當事者の目を瞞らしてゐる。

(二) ゴムも關心すべき一である。北ボルネオで、輸出平均年四萬噸、その大部分は原住民ゴムで經營者は主として華僑である、このゴムの栽培には大量の勞働者を吸引してゐるのであるが、このゴム栽培を多少緩和すれ



ば、労働者の配分を他に均霑せしめ得るのであり、新局面の打開も樂になる。とにかくゴムが現在の所では當地唯一の産業を爲してゐるのである。

(三) ボルネオ全島を蔽ふ密林は、まことに一望千里で、山嶽の頂きから海岸に至るまで、見渡す限りが密林の連続である。だからして木材は無盡藏といふべく、造船材、建築材、製紙パルプ材、人絹パルプ材等々は、たとへ良材が雜木に混じつてゐたり、搬出道の不備などのことがあるとしても、經濟上の價值も、その方法の良しきを以つてせば無盡藏といひ得るのである。

南方の新建設にボルネオ材の受持つべき負擔は極めて大である。製紙用苛性加里の現地生産が椰子から抽出することによつて得られるやうになつたから南方所要の紙をボルネオで一手に引受ける時代もあまり遠いことではないかと想像される。

(四) コブラ、サゴ、椰子油等の生産も相當なもので、これらも大東亞新建設に大きな役割を演ずるものである。

(五) マングローブ樹皮から採れるカツチ(タンニン材料)もボルネオの特産の一と數へていゝもので、これは従來は悉くが英本國向けであつたが、これも大東亞に役立つものであり、鱈皮、トカゲ皮等の原料と、これを糝すカツチとをそのままに移出してゐたのを現地で、双方を生かして、製革に當るべきである。

### 三、開拓すべき資源

先づ第一に開拓すべき部門は農業、特に米の増産である。北ボルネオだけで考察しても、八十萬の人口で、年

八十萬石を要するものとして生産は現在四十萬石に過ぎないのであるから、四十萬石を輸入に俟つてゐるのである。その四十萬石の生産も、原住民たるダイヤ、ズスン、ムルツト族の火田法による陸稻が大部分で一部が華僑及マライ人の作る水稲である。そして、輸入米の輸入税と石油、ゴムの輸出税とが、政府財政收入の大宗をなしてゐたといふのであるから支配者英國のやりかたの惡辣さが察せられる。

單にこれは米ばかりでなく、玉蜀黍も甘蔗も黄麻も苧麻も棉花も皆これと同じやりかたで、農民の有利となるような農作は、消極的に否な寧ろこれを妨害するようにして來たのである。

水産に關しては我がボルネオ水産會社がサンダカンを足場とし、シアミル島、バンギー島を中心として鯨節、鮪罐詰を製造してゐたのみであるから、皇國水産の今後の進出は刮目すべきものがある。

鑛産については、従來の調査では、石油以外には好望のものなしとせられてゐたが、これは英國が他國資本の侵入を恐れての調査回避であつたらしいことが判明した。現にクチンの町に上陸した軍隊が町の一角の赤土道を通つたのであるが、その道は貴重なる鑛物が赤くなつてその露頭を示してゐたものだつたと云はれ、又、ある所では飛行場を拓かうとして、薄土をならずと一面の石炭層の出現に出會したなどとの實話も傳へられてゐる。

### 四、交通の不便

北ボルネオをはじめ、ボルネオ全島には道路らしい道路は極めて少ない。繁華な市街でも道路は二〇哩も行かぬうちに、ジャングルで消えて仕舞ふ現狀である。草や樹がよく繁茂するのに補修をしないから道は直ぐに廢道となる。だから町と町との連絡は船によるのみである。密林に蔽れた大平野を貫流する河は大小無數で、船を通



するの不便はないのであるが、河口の甚しく浅いことが難點で十杆も進めば水深十五米以上で、相當な吃水の船舶でも入り得る位であるのに河口では二米位の深さになるので、二千噸級の船舶でも入航に困難を感じる。たゞラバン島を前面に擁するブルネイ灣の一部及びサンダカン港が相當の巨船を容れ得るのみである。

陸路では、西北海岸アビ(舊名ゼツセルトン)からウェストン、メララツブ迄合計百十六哩の輕便鐵道が敷設されてゐたのみで、アビからサンダカンまでの横斷道路も、たゞ／＼唱へられてそのまゝに立消になつてゐた。交通は一に丸木舟と、馬背による(馬道も少い)のであるから、これが産業開發を妨げることは想像の外である。

### 五、住民の様相

北ボルネオについて云ふと、原住民の人口は四十萬、華僑二十萬、マライ人十萬、インド人、アラビヤ人其他で十萬、全人口八十萬であるが、この四十萬の原住民其他に對して實勢力を以つてゐるのは華僑である。今次占領の結果、英人の勢力は驅逐されたのであるが、經濟的實權は依然として華僑の手にあり、其他官吏に教員に華僑の實勢力は仲々優勢なものがある。華僑問題はこのボルネオでも深い關心の的である。マライ人等は遠く之に及ばない。

原住民たるダイヤ族初め他の種族、マライ人等は日本人に心から推服し、好意と親愛とを表してゐる。かの強暴を以つて鳴つたダイヤ族さへ日本人に對しては絶對服從で最高の敬意を表してゐる。彼等は水田耕作を知らず數の觀念すら無いのであるが、これに對し、從來英國は勉めて、これを文盲で放擲して置かうとして來た。然し實際のところダイヤの能力は寧ろマライ人を凌ぐものがあるといはれ、教育指導の如何によつては慄悍にして義

理堅い勇者を出し得ると考へられるのである。

### 六、大東亞戰下のボルネオ

昭和十六年十二月二十四日、我軍は敵潜水艦と航空機の攻撃を排しサラワク王國の首都クチンの上陸に成功し、翌二十五日更に同地南方に於て約一、〇〇〇名よりなる敵を撃破し飛行場を占領した。この戰鬪に於て我方の損害は戦死一名のみであつたが、敵の戦車四輛、自動車五十輛、火砲一門等を鹵獲し、敵二〇〇名を俘虜とする等多大の戦果を収めた。又英領ボルネオの中央に位するブルネイ王國は豫てより、皇軍の進駐を希望してゐたが、三十一日我軍は國王以下住民の盛なる歓迎を受けつゝブルネイ市に入城し、翌十七年一月一日にはラバン島を平和裡に占領した。更に一月三日我軍は北ボルネオのウェストンに上陸し邦人二〇九名を救出した。又蘭印は戦禍波及を防止せんとする帝國の努力を無視し英米兩國に對し空軍並に潜水艦の基地を、提供するに止まらず、其の潜水艦及び航空機を以つて屢々軍作戦を妨害する等全く米英の傀儡と化し其の態度を改めざるを以つて陸軍は海軍との緊密なる協同の下に一月十一日タラカンに上陸し島内の敵を降伏せしめた。

タラカン島に上陸した部隊は十四日ジウサタ及びゴシチャゴールの油田の接收を以つて全島の戡定を終つた。戦果左の如し。

俘虜八百七十四、高射機關銃九門、重機關銃六九挺、小銃五五六挺、装甲自動車十五輛、自動車十五輛、彈藥其他軍需品多數。

この戡定作戦に於ける我軍の損害、戦死八、戦傷三二、クチン攻略部隊は英蘭國境に進み蠢動する蘭軍を撃退



し十六日西部の要衝ピサンを奪取した。

蘭領方面 蘭領ボルネオ方面に作戦中なる帝國陸軍部隊は昭和十七年一月三十一日夜有力なる部隊をもつてボルネオ島東岸の要衝タナーゴゴトに上陸し、これを占領し、また遠くパング海方面に作戦せる帝國陸軍部隊は海軍部隊と協力して一月三十一日未明アンボン島に上陸し所在の敵を掃蕩した。

英領ボルネオ方面 北部英領ボルネオ方面に作戦中なる我が部隊は一月二十四日要衝タワオを急襲してこれを占領し同市に監禁中の邦人五百八十七名を救出すると共に、二月四日その一部をもつてラハツドダツ（タワオ北方百キロ）を占領し、かくて英領ボルネオの既定作戦は概ね完了した。

占領地の状況 占領地の治安は着々回復せられ建設は漸くその緒につきつゝあり、同地住民は皇軍の眞價を認め、治安維持及びその他の復舊工作に従事しつゝあり、また開戦と同時に英國官憲により強制連行せられ或は自ら山中に逃避して居たマライ各地のサルタン及びラジャは、皇軍の眞意を諒解し今や積極的に歸來して我が軍政統治に協力してゐる。（註）ラジャは回教徒にあらざる小王、サルタンは回教徒の王。

#### タワオ占領

わが陸軍精銳部隊は去る一月二十四日英領ボルネオ東岸のタワオ（タラカン北方約百キロ）に奇襲上陸を敢行し、忽ちこれを占領し、邦人を救出した。タワオは大正初年から邦人が多数移住し、ゴム、椰子、マニラ麻などの栽培及び水産業に従事してをり、外人から「ジャバニーズ・セツツルメント」（日本植民地）の別名で呼ばれてゐた。

#### ラハツドダツ占領

英領ボルネオ東岸に作戦中のわが軍は去る一月三十一日午後零時半タワオ東北方百キロのラハツドダツを占領した。

#### バリックパバン敗敵の狼籍

リスボンに達した中立國筋情報は、日本軍のバリックパバン上陸に際し蘭印當局が同市のあらゆる施設を破壊して逃亡するといふ惨虐な行爲を敢てしたため、住民は一時極度の惨狀に陥り、漸く日本軍に救はれた模様であると左の如く報じてゐる。即ち去る昭和十七年一月二十五日日本軍の敵前上陸により占領された蘭領ボルネオ東海岸の要衝バリックパバンの蘭印軍は、日本軍上陸と同時に軍施設はもろろん凡ゆる文化施設を悉く破壊し、商店街の建物、住民の食糧に至る迄容赦なく焼拂ひ、住民をして住むに家なく食ふに糧なく路頭に彷徨せしめるといふ哀れな状態に残したまま逃亡したといはれる。これらの住民は日本軍に救ひを求めざるはかなく、日本軍の上陸を待ち焦れてゐたといはれ、かういふ状態であるから日本軍は全住民から救世主のやうに歓迎された。尙バリックパバンに在つたBPM（バターフセ）石油會社首脳を含む蘭印首脳は、全部日本軍上陸に先立ちジャワに逃亡したが、米人十二名、スイス人十名、ルーマニア人二名が逃げ遅れ一萬五千の華僑も同市に残留してゐるが、これらは日本軍の保護下に置かれてゐるものと云はれる。

#### ポンティアナ占領

荒天を冒し昭和十七年一月二十七日蘭領ボルネオ西海岸パマンカの敵前上陸に成功したわが精銳部隊の一部は主力と別れて同地において民船を徴發し大膽不敵にも護送船もなく獨力で敵潜水艦の出没する海上を南下し二十九日カブアス、チテル河を遡航、ポンティアナに上陸を敢行、これを占領した。一方二十七日英領クチン南方か



ら國境を突破蘭印に入つた部隊は同日シルマスで約三百の敵を撃滅、敵遺棄死體三百の戦果をあげたほかサンバ  
スでは同市の理事官（行政長官）以下七名の和蘭人を捕虜とした。

タナーゴゴト占領

蘭領ボルネオ東海岸要衝バリツクババンを昭和十七年一月二十五日完全占領したわが陸軍部隊は附近の殘敵を  
掃蕩、逐次戦果を擴大し他の一部隊は一月三十一日未明バリツクババン西南百キロの要衝タナーゴゴトを奇襲  
占領した。

バンジャルマシン完全占領

蘭領ボルネオ方面帝國陸軍部隊はタナーゴゴト上陸後、陸路四百キロの悪路を踏破し昭和十七年二月十日正  
午ボルネオ島南岸の要衝バンジャルマシンを完全に占領した。

英領ボルネオ上陸部隊はその後占領地附近の戡定作戦及び敵側の破壊せる油田復舊に努めつゝあつたが、三日  
有力なる一部隊をもつてウエストンに奇襲上陸を敢行、アビ、ポーフオートにあつた約六百の敵を武装解除する  
と共に監禁中の邦人二百九名を救出した。またクチン警備隊はパウ方面を掃蕩し輕戦車二輛、自動車十五輛、ガ  
ソリン多量を鹵獲、俘虜將校二、下士官十四を得た。

情報局發表 (二七、二二、九)

- 一、舊英領ボルネオを「北ボルネオ」と呼稱す。
- 二、舊蘭印ボルネオを「南ボルネオ」と呼稱す。

陸軍省發表 (二七、一〇、二八)

陸軍中將 侯爵 前田 利爲

任陸軍大將

右後任として過般左の如く親補せられたり。

陸軍中將 山脇 正隆

補ボルネオ方面陸軍最高指揮官

## 第二節 概 説

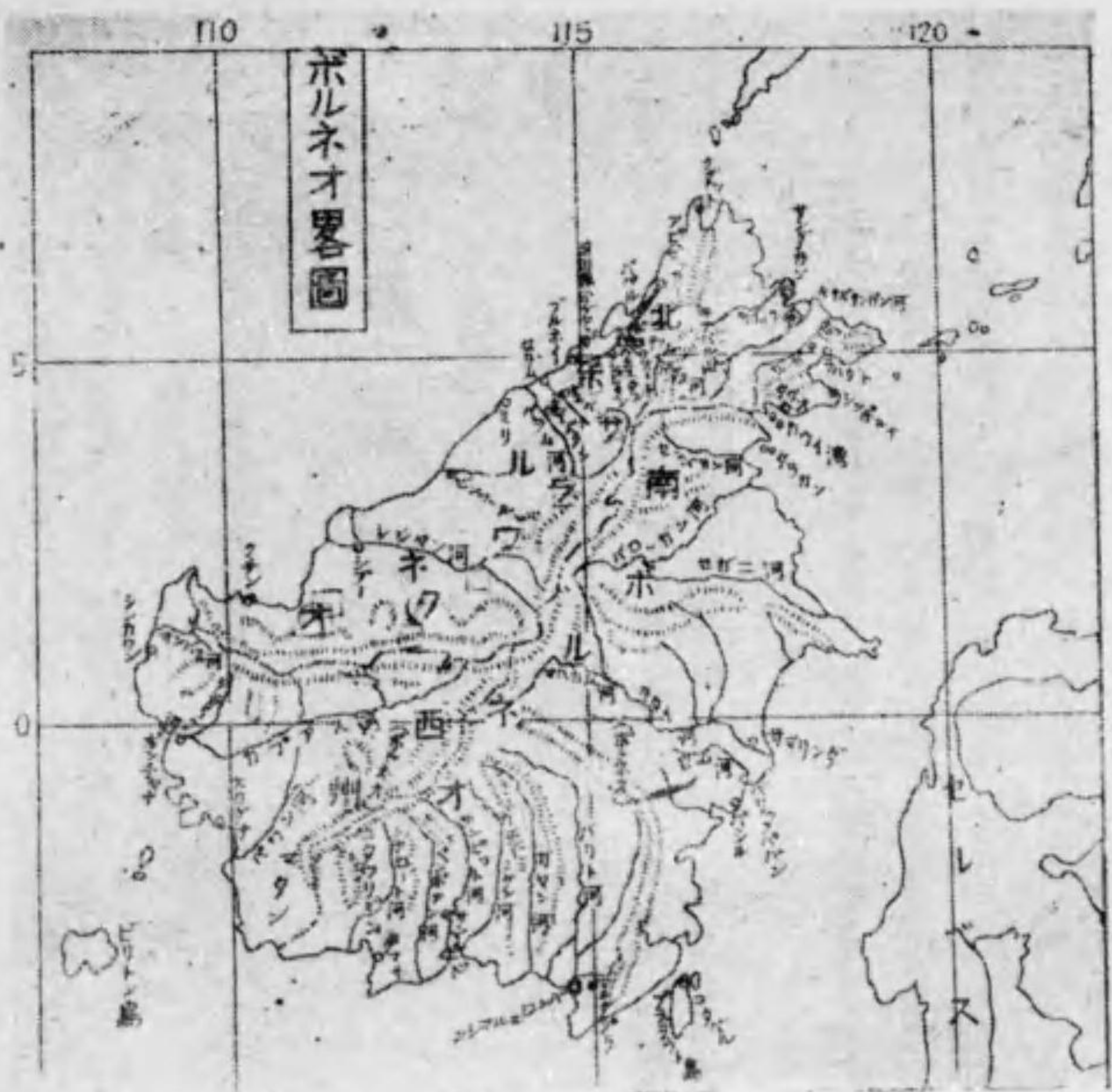
### 一、位置・面積

ボルネオはセレベス、(東)ジャワ、(南)スマトラ、マライ半島(西)に圍まれ、北は比島(東北)、南支那海を  
距て、東亞大陸に接し、月夜に狸が浮かれ出した様な姿で立つてゐる島で、それは濠洲グリーンランドに次  
いでの世界第三の大島である。

北緯七度二〇分から南緯四度二〇分東經一〇八度五三分から東經一一九度二十二分まで丁度印度洋と太平洋との  
中間に位置する位置に立つ、東北より西南に向つて長くなつてゐて、その最長經は約八三〇哩、最大幅員は約六〇  
〇哩で赤道は島の中央部をや、南寄りに横斷してゐるので、島は三分の二が赤道以北、三分の一が赤道以南とな  
つてゐる。

面積は七三六、五〇〇平方杆で皇國全土の一・二倍に相當してゐる。





このボルネオ島はもと蘭領ボルネオ、サラワク、ブルネイ、英領ボルネオ（今の北ボルネオ、爾後北ボルネオと稱へる）の四部分に分れてゐたものである。

今これが面積を表示すると次の如くである。  
元の蘭領に属した部分

サラワク王国	五三九、四六〇平方杆
ブルネイ土王国	一二九、四九五平方杆
北ボルネオ	六、四七五平方杆
	七六、四〇三平方杆

二、地 勢

(一) 山 嶽

ボルネオ島の中央部を縦貫し、東北より南西に走る山脈は大體に於て島を東西の二つに区分し、その北端には四時雪を戴ける島第一の高山キナバル山があり、その高さは四、一七五米と

いはれる。これより南下して島の中央でカブアス山嶽となり西北に走つてゐるものと、中央より西南に走るミユレル山脈、シユワネル山脈となり、東南ボルネオと西ボルネオとを區別してゐる。なほ中央部から別れて東南に下るものはメラトウス山脈となり、一帯の高臺地帯を形成してゐる。  
今主なる山嶽を挙げると次の如くである。

ム ル ド 峰	二、三六〇米 (舊蘭領の北西部とサラワク及ブルネイとの境)
ム ル ー 山	三、〇〇〇米 (ブルネイとサラワクの境)
リンバカウ山	二、五〇〇米 (ブルネイと北ボルネオの境)
テ パ ン 山	一、七〇四米 (中央部)
カ リ フ ン 山	一、七九〇米 (中央部)
ニ デ ツ 山	一、七〇一米 (ランダ北方)
ベ ラ ン ギ ン 山	一、七五八米 (シンタンの南西方)
ブキツトラチャ山	二、二七八米 (シユワネル山脈)

一體に東北が高く南西に漸次低くなつてゐて、平均高度は一、〇〇〇—一、五〇〇米となつてゐる。

(二) 河 川

ボルネオの河川は中央山系を源として大小無数のものが四方に注いでゐる。著名なるものを挙げると次の如くである。(西ボルネオの西端より環狀にサラワクに及んで挙げる)

サ ン パ ス	一一二〇哩 (西ボルネオ)
---------	---------------



ランダツク	一五〇哩 (西ボルネオ)
カプアス	七一四哩 (西ボルネオ)
パワシ	一八〇哩 (西ボルネオ)
アロート	一七〇哩 (西ボルネオ)
ベンボアン	二三〇哩 (東南ボルネオ)
サンピット	二二〇哩 (東南ボルネオ)
カティンゲン	二六〇哩 (東南ボルネオ)
カヤン	三〇〇哩 (東南ボルネオ)
バリト	四五〇哩 (東南ボルネオ)
クタイ(上流マハカム河)	五〇〇哩 (東南ボルネオ)
パローガン	二五〇哩 (東南ボルネオ)
セムバヨン	一五〇哩 (東南ボルネオ)
セガマ	一二〇哩 (東南ボルネオ)
キナバタンガン	一八〇哩 (東南ボルネオ)
ラブツク	一三〇哩 (東南ボルネオ)
パダス	一〇〇哩 (東南ボルネオ)
バラム	一五〇哩 (サラワク)

レ ジ ヤ ン 一六〇哩 (サラワク)

これらの内でカプアス河及びバリト河、クタイ河は延長・水量共に遙かに他の河川に超えてゐる。

ボルネオ島は、その山脈と山脈との間に廣大な平野を造成して居り河川は之を貫流して中央高地より土砂と共に有機物を運んで來るので河口附近に堆積し、沖積土を構成してゐる。而して廣大なる平野を貫流する河川は何れも、その河底の勾配が少ないので、潮流の干満によつて常に逆流を生じ河筋を膨大(一時的の氾濫)するので大なる河川になると逆流が七〇哩の上流にも及び、従つて河口に淺瀬を作り船舶の出入に不便なところすら生ずる。それらの爲にボルネオの海岸一帯は泥濘地が多く、マングローブ林が繁茂し、少しく河口を遡ればニツパ椰子の繁るのを見るのである。

マングローブ林が河口附近に發達してゐること、上流から運ばれた土砂で河口附近に三角洲の多いこと、一帯に泥深い淺海となつてゐることはボルネオ島の一特色と見てよいのである。

三、地 質 構 造

(一) 構 造 一 般

ボルネオの舊い山脈の分布状態を見ると、その枝分れした配列の具合は實によく比島の場合に似てゐる。島の最高部は北東方にあつて、此處に北々東—南々西の方向を有つた褶曲山脈が群つて居り、それから主要な走向は南西に向つて又、南東に曲つてゐる。其の西隣のものには最初は南北、次に南西に曲つてゐる。島の中央部及び西端の肢節は島の北東部にある山脈の一般方向と殆ど直角をなして急に西北に曲つてゐる。

三 地 質 構 造



中生代に於ける地殻運動は明かに察知出来るが、しかし地層の走向の餘り明瞭でない地方が屢々あり、マノマニアン地層の下にも不整合のところが発見されてゐる。島の北東部では褶曲山脈が密集して居り、地質構造は甚だ複雑を極めてゐる。

ボルネオの第三地層には全く異つた二つの構造がある。即ち東部及び東北部には非常に厚く、地層を堆積した地向斜の海が存在してゐたもののやうで、之等の地層は可なり激しく褶曲してゐる。之と反対に島内の大部分は第三紀の時代にその大半が陸地であつたらしく、其處には何等著しい褶曲がないばかりでなく地層は現在でも殆んど水平に横つてゐる。全體として云へばボルネオでは東方及び西北方が安定度が高いやうである。

#### (二) 上部三疊紀層

主として砂岩、泥板岩から成る地層が西部ボルネオにあるが、それから *Monotis Salinaria* (瓣鰓類の化石) が発見されて上部三疊系が此處にも發達してゐる事が判明した。西部ボルネオにあるホルンフェルス岩(接觸變成岩)の一部は同様三疊紀のものと考えられてゐるが、しかし一方ではジュラ紀のものと考えられ或る地層の確實な時代は不明であつて、恐らく一部は三疊紀のものであるといはれてゐる。

#### (三) ジュラ紀(中生代を三つに區分したその中の時代)

島の西部ではリアス期は(海水浸蝕期) *Harpoderas radians* 及び一枚貝を含む黒色の、一部石灰質の泥板岩、砂岩等の地層で示されてゐる。中部ジュラ系は砂岩、土質泥板岩、石炭質泥板岩及び數多の巻貝數を含む石灰岩で代表されてゐる。

砂質泥板岩 砂岩を伴ふ粘土質泥板岩層中からは *Perisphinctes* が発見されたが、これは恐らくはジュラ紀層上部を示すものと考へられてゐる。

ボルネオの中央山脈が東面に走り、之れに追ふてカブアス河アマハカム河の上流にダナウ層群と呼ばれる地層が廣く發達してゐるが、この層群の岩石は輝綠岩、輝綠岩質、凝灰岩、輝綠斑岩、珪岩、珪質粘板岩、碧玉、角岩、泥板岩、砂岩等である。放散蟲類は非常に豊富で、特に角岩及び他の珪質岩、輝綠岩質、凝灰岩等の中に多い。此の放散蟲はジュラ紀のもの様であるが、此の層群の一部は又三疊紀に屬するものと思はれる。

赤色粘土及び放散軟泥は現在は深海で形成されるものと信じられてゐるのであるから、此の地層が現在島の中央山脈の一部を構成してゐる事實から推定すると、中生代以後に、現在では主として安靜な大陸塊をなしてゐる一地方に於て非常なる地殻變動が行はれたものと云はざるを得ないのである。

#### (四) 白 堊 紀

島の西部には砂岩、硬砂岩、泥板岩、多少不純の石灰岩からなる白堊紀の地層が廣く分布してゐる。*Orbitolina concava* アンモナイト *Kremoceras*, *Schlönbachia* 及び巻貝二枚貝等の化石を出してゐるが、その一部分は確かに上部白堊紀層に屬するものである。

セノマニアン (Cenomanian) …(白堊紀のアルビーン代とツロニアン代との中間)の基底礫岩は諸所に發見されてゐる。ある地方では此の時代の海浸はセノマニアン代よりも少し早かつたのではないかと思はれるので、即ち、西部ボルネオのラングツク河附近の粗粒砂岩からは *Jtieria*, *Nerinea*, *Arce*, *Mytilus*, *Exogyssa* 及びその他の若干の二枚貝を出してゐるが、之等はセノマニアンよりは古い時代のものであることを證してゐるのである。



ある。

中部ボルネオのシラト河附近では *Orbitolina concava* を有するセノマニアの地層は上方は砂岩、粘土質泥板岩に變り、更に之より著しからぬ不整合を以つて鹹水、淡水産の多くの軟體動物を含む上部白堊紀層に移つてゐる。

南部ボルネオには泥板岩、礫岩、砂岩及び白色、褐色、赤色、灰黑色の石灰岩から成る地層がある。之からは *Neinea*, *Radiolites Strombus* 等のセノマニアの化石を産する。*Orbitolina concava* を有するセノマニアの石灰岩は此の部分にも亦發見されてゐる。

### (五) 第三紀

第三紀古期の最終の頃は現在の群島の大部分は海底にあつたのが、第三紀新期に入つて現在海洋である大部分は陸地となつた。これは現在のマライ半島とボルネオとを結ぶ陸地であつたもので、この陸地は東及南の海岸と接して地向斜の海が横たはり、この海に現在の東スマトラ、北ジャワ、東ボルネオ等で見られる含油層が堆積しつゝあつたのである。

## 四、氣 象

ボルネオの氣温は大體から観ると一年を通じて平均攝氏の二十六、七度である。日中から午後三時頃が最も高氣温であるが、朝夕は涼しく、夜間は雨期の時と雖も蒸し暑いといふようなことはなく、深夜には毛布が要る位である。

雨量は一般に潤澤であり、特に中央山脈の西方海岸地帯に多い。降雨量は東海岸地方平均二、〇〇〇—二、五〇〇耗、西部地方三、三〇〇—四、〇〇〇耗で、降雨日数は東部地方一五〇—一七〇日内外、西部地方一八〇—二〇〇日である。

降雨期は何れの地方でも、大體十一月前後から翌年四月頃となつて居り五、六月—九月頃迄は乾期となつてゐる。しかし西ボルネオでは乾期中でも降雨があつて、それは東部のように乾期がはつきりしてゐない。

ボルネオ島は四方海岸に圍まれ、西は印度洋、北は南支那海、東は太平洋、南には南太平洋があり、アジア大陸と濠洲大陸との間に位置してゐる爲に、全ボルネオに及ぼす風位は常に海洋と兩大陸との影響によつて變化する。

北半球に於ける冬は南半球の夏であり、アジア大陸の高氣壓はボルネオ島に對して東北季節風として強く當る。これが十一月、十二月、一月となつて次第に偏北西風となりそれが四月、五月になると、濠洲大陸の冬季となつて偏西南風が吹いて來るやうになる。此の二つの季節風はこのボルネオに雨量を齎らす原因なので、其交替期である四月と十月は屢々強風が襲來する。この強風は一般に北西又は西方からするので、雨が加はり海上には高潮が起り河川は氾濫する。

## 第二節 種族と其の特徴

ボルネオの原住民としては、バンヂヤル人、クタイ人、テドン人、ダイヤ人、ヅスン人、バジヨウ人、ムルツ



ト人、ジャワ人、マヅラ人、マカツサル人、プギス人、トラチャ人等が之の主なる者として數へられる。

イ、バンヂヤル人 東南ボルネオ州原住民中で最も文化の進んでゐる種族でバンヂヤルマシンの中心とした地域に多數が住んでゐる。性質は温順といふてよく、だが金銭上ではやゝ狡猾であつて、人の上前をはねるが如き商賣を好むやうであり、力の要る労働を厭ふ風がある。

バンヂヤルマシンの附近ではゴム園、ダイヤモンド採集等に従事するが此の種族中には大き工を生計とする者が多く、皇國の進出せる南洋林業會社では船渠、苦力小屋の建築に當つて大工として相當の働きを見せてゐる。しかし、一般に身體は強いとは云へない。

ロ、クタイ人 東部ボルネオのクタイ自治領民であつて其の數は少ない、性質は温順であるが氣概はなく、他人種の壓迫に抗し得ないし、身體も一體に劣悪で労働者としても使用に適しない。

ハ、テンド人 タラカン、リンカス附近を中心として住む種族で、身體は一般に相當に強壯であり、總ゆる労働に堪え得るが、種族の分布は小範圍で人口は尠少である。

ニ、ダイヤ人 ボルネオ島の最も古い種族で、往昔、ポルトガルの航海者が此の島を發見した頃は全島はマライ人其他の種族を合せ人口二百萬位で、その内マライ人が五十萬位ダイヤ族は百萬を超えてゐたといはれる。このダイヤ族は當時は海岸に住む者と、山地に住む者との二種からなつてゐたのであるが、海岸に住む者は、いつしかその跡を絶ち、今では東南ボルネオ州の山間に居る者のみとなり、山間に半裸體で住んで狩獵を以つて生計をする蕃族となつてゐる。昔は他人種の首を好んでとり、その人肉を食つてゐたといはれるが、現在では多少は近代文化の風に染み、首狩の惡習もなくなり、性質も從順になつて來たといふ。

山間に生活してゐる者であるから、山地の踏破に秀で、體格は一體に貧弱ではあるが、相當に活潑な活動を爲す能力を有してゐる。

山林調査のときの道案内、伐材作業等には無くてはならぬ存在である。

ホ、ジャワ人 本島に於て文化度の最も高い種族で、政治、經濟、教育各方面に於て中心的存在をなし、最も智的な最優秀の種族である。

性質は温順で他種族に比較して勤勉である。水田作り、農作等の土に親しむ労働には特に優秀で、農民としては本格的のものである。又貯蓄心もあり、蓄財もあり相當開けた所にも住んでゐて、相當の生活をしてゐる。だからして、中には企業家に對して不平不満を訴へる者もあり、惡質の煽動者となつて油斷のならぬ性質を表はす者もある。

ヘ、マヅラ人 ジャワ人に比較して文化の程度はやゝ低くよく争闘を爲し、又一體に怠惰で眞面目な仕事に従事するのを好まぬやうである。體格が相當に強健なので棧橋苦力として働いてゐる者が多い。これは最近に多數の移入を見たもので、道路工事などに就業させられてゐたが、労働力は可なりであるものゝ、労働者としては其の性質にあまり好ましからぬところをもつてゐる。

ト、マカツサル人 セレベス島のマカツサル附近に住む種族の渡來したもので、これもマヅラ人と同じく争闘を好み、一體に怠惰である。棧橋苦力などとなつて生計を營んでゐる者が多いが、統制された組織の下で働くことは好まぬやうである。

チ、プギス人 人種的にはマカツサル人と同種であるが山間に住居してゐた關係からマカツサル人の如く粗獷で



はなく質實剛健の氣風がある。體格も一般によくて性質も從順慇懃なので、需要が多い。割合に怠者が少く、それに比較的に重量労働をも厭はぬので、労働者としては最適であるが、然し細かな作業には適せず、伐木造林のやうな荒仕事に最も適する。賭博を好むのは一つの缺點であるが、大量需要に纏つた數を募集し得るのを長所とする。

リ、トラチャ人 ブギス人同様にセレベス在住の種族で、セレベスのダイヤ族とも稱せられ、昔は首祭りを行つた事もあるのであるが、現在では其の惡習もなくなつた。曾て和蘭の統治に對して、反抗の戰端を開いた位に氣概のある種族なのである。然し漸次に消極的な氣風となり、人口も減少しつゝあるやうである。

性質は温順、勤勉、貯蓄心にも富み、労働者としては優秀な部類に入れ得る。體格はブギス人ほどにはよくないが、相當な重量労働にも堪え、又農作にも秀で、ゐるので、各種の仕事に重寶がられてゐる。たゞ種族的の團結心があまりにも強く、時折罷業的な行動に出るのは缺點とせられる。(以上は主として舊蘭領内の種族)

ヌ、ツスン人 ツスンとは馬來語で「果樹園の人」を意味し、一般に倭軀で頭丈なる體格をしてゐる。平和な種族で、熾烈なる農業本能があり、水稻、煙草を栽培してゐる。古來から支那との通商が盛んであつたので、支那人の血が濃厚に交つてゐるといはれる。

ル、バジャウ人 健康で勇敢な種族で、漁業、樹皮採取を生活の資料としてゐる。舟を唯一の住家としてゐるので、昔日の海賊の風を多く存してゐる。

ヲ、ムルト人 體軀は倭少であるが、狩獵に巧で、林産物の交易で生活してゐる。もとはツスン族から出たも

のであるが、風俗習慣に原始的なものを残して居り、首狩の風もこれを禁じたのは近年になつてからである。今に轉々として住居を變へ落着が無い(ツスン、バジャウ及ムルトは主として北ボルネオに居る)。

## 第四節 植物

### 一、植物の様相

ボルネオの原始林を彩る樹木には、葉の麗はしいもの、斑入りのもの、金屬光澤のあるもの、麗しく色彩されたもの等が多い。



一 植物の様相

多數の樹木の花は熱帯植物の通例に見るやうに小形で、不顯著でそして緑色が多いのを特長とする。

イ、藤本植物 熱帯には非常に多數の種類の植物が集合してゐるので、多くの植物は出来る丈、伸びて陽光にあたらんとするため、蔓性の植物が非常に多くなつてゐる。

これに屬するものにはトウ屬、マメ科のもの、モダカヅラ屬、ハカマカヅラ屬、ノボタン科のものが多い。蔓性の竹のあるのは注目し得る。



ロ、ヤシ類 これは熱帯性の植物で、種類も数も多いが、ニボンヤシは河口近くの湿地のみに産し、ピンロウ属は溪谷に生育する。

ハ、着生植物 これは大別すると「根以外からも養分を吸ふもの」と、「莖又は根」で養分を吸ふものとの二となる。

前者は羊齒類に多く、葉の水孔から養分を吸ひ、後者は蘭科のものに多くて莖、根から榮養をとる。

ニ、ラン類 着生植物として本島に最も多いもので、美しい花をつけるものである。コテウラン属、ホウワウラン属がこれに属する。

ホ、幹花 幹又は枝の太い所から直接花が出るもの（例カカオ）で、本島には之が多い。これはマメ科、バンレイ科、イヌビハ属、アオツヅラフチ科にも見られる。

ヘ、ウツボカヅラ 本島の奇異植物の中で最も珍奇なのは、食蟲植物たるこのウツボカヅラである。大きな捕蟲囊を持つてゐて、キナバル山下にあるものなどは、その囊に一升二合の蟲を容れ得るといふ。

ト、蟻植物 植物體の一部が肥大して、蟻に巢を作らせてゐる植物を蟻植物と謂ふ。これがボルネオには多く、莖の肥大して小兒の頭ほどあるのがよく見受けられる。これ等の植物は他の部分是非常に縮少してゐる。この肥大部はやはらかで、貯水組織が発達してゐる。これを割ると多くの溝があるがそれは蟻の交通した路であり、その住居である。

チ、主要なる樹種 ボルネオの原始林には極めて多數の樹種があるが上述の外に主要なるものを挙げると次の如くである。

- (1) 大形のもの リウノウ科、マメ科、アカテツ科、ブナ科、クワ科、バンヤ科、シナノキ科、ビハモドキ科。
- (2) 中位のもの ニクヅク科、センダン科、オトギリサウ科、クス科、タカトウダイ科。
- (3) 草木類 シダ類、メウガ科、クズウコン科、サトイモ科、イハタバコ科、キツネノマゴ科、イラクサ科、ウハバミサウ科、ウライサウ属、アカネ科のイリオモテサウ属、サツマイナモリ属、ノボタン科のもの。多數のラン科、ツユクサ科、シウカイドウ科、カヤツリグサ科のもの又禾本科のものとしてはレツタスビス、ウルセオラタのみが廣く分布してゐる。
- (4) 莖 葉面着生の藻類、藻類

## 二、地相による樹種の分布

イ、海濱砂地帯 乾燥した砂地帯にはモクマワウが多く、リンタウ属、グネツム属、トウ属、カヤツリグサ科、タヌキマメ属、コマツナギ属、アヅキ属、ササゲ属、ヒルガホ科のものが多い。

ロ、海濱岩石地帯 ゴバンノアシ、モモタマナ、クロヨナ、ハスノバギリ、イヌビハ属のものが多い。

ハ、紅樹林 河口、入江の泥土中に發達するので、主なるものは、ニツバヤシ、マヤブシキ属、サキシマスワウ、アカンサス、シマシラキ等で、眞正の紅樹としては *Brughiera conjugata*, *Kandelia littorea* 其他數多が數へられる。

ニ、河口 満潮の時、海水の浸す地帯にはニツバヤシ、ニボンヤシを主體とするヤシ林があり、是等ヤシは住民の生活に必要なものである。



ホ、溪流に沿ふ樹種 植物の葉は一體に狭長で、*Croton viminalis*, *Neonuclea angustifolia* ナリヤラン屬 其他がある。

ハ、山地の樹種 一―二千呎の高地にある常緑樹林は着生、藤本の植物が多く、地床には羊齒が繁茂してゐる。樹林としてはハイノキ屬のもの *Mitrephov humilis*, *Diospyros* 其他がある。又毬果植物の *Podocarpus*, *Dacrydium* 等もある。

ト、高地帯 二―三千米の高地にあるもので、此の地帯は風が多く霧が深いので、樹林の葉は小さく、革質で、藓、地衣が樹幹樹枝に着生してゐる。*Ternstroemia lowri*, *Schinna brevifolia* キキョウラン 其他で一種の硬葉灌木林である。

チ、高山帯 北ボルネオ最高峯キナバル山では、シヤクナゲ科のもの、テンニンクウ科、アカネ科のものが多く、毬果植物としては、*Podocarpus nerifolia* タビラコ屬、ワスレナグサ屬、コゴメグサ屬等が見られる。岩石地にはフクトメキンバイ、ミヤマコメスキの様な臺灣高地と共通のものがある。熱帯であるために、眞の高山草原はない。

## 第五節 動物

ボルネオは東方のセレベスとの間に深海を挟んで居るが、これはボルネオが、東南亞細亞の東南端部であつたもので、今の南支那海は大陸の中間が、海の浸蝕によつて生じたものと考へられる。その浸蝕も相當古い時代に

行はれたものらしく、それはボルネオの動物が、大體に於て大陸のものよりも小型のものが多いことから、この島が孤島化して相當の年代を経たことを證してゐる。この島として大きなものは象、犀、猿、野牛であつて、その他小動物はアジア大陸にあるものと大同小異である。虎は居ないが、豹、野猫には相當猛なもの、奇妙なる型のものが多い。ジャングルには山豚が横行し、猿には長鼻猿、手長猿が多く、類人猿オランウータンも居る。

野鳥は非常に多く、約五五〇種を數へられるが、類型によつて分けると、さほど多くはない。雉の類には羽毛のけばくしく飾立てゝゐる極樂(蠅取)鳥といはれるのが居る。蛇の種類も數多く、一體に有毒のものが多し。ジャングルにはコウノ鳥、梟が非常に多い。動物の特殊のものを挙げると次の様である。

イ、皮翼類 *ヨブスマザル* (*Galeopterus, temminckii*) はボルネオの特異のもので、門齒の櫛齒の數は七、八個である。十二米の樹上から五十米離れた樹末にも跳び、樹へ登るときは匍ひ上るのが速いといふ。

ロ、靈長類 *ローリス*、體長三二―三七種で、形は人によく似て居り、頭は丸く眼は大で、尾は甚だ短い。密林に棲み、夜活動して口笛に似た聲を出す。(*Nycticebus tardigradus*)  
メガネザル (*Tarsius*) 樹上生活を爲し、夜活動するもので、體は鼠位で脛が長くよく跳る。尾は頭胴より長い物を卷かぬ。眼は異常に大きく、前から見るとフクロウのやうである。

ハ、猿科 *テナガザル* (*Hylobates*) 尾がなく頬囊も無いが、臀脰は小さいのが類人猿科と違ふ所である。前肢が後肢より遙かに長い。英名ギボンといふのはこの屬で、毛は黒いが顔のまはりには灰白色をして居り、喉に囊があつて、朝高い音で大聲を發する。それで原住民はこれをワアワアと名付けてゐる。



## 第六節 歴 史

ボルネオの初期の歴史は暗昧であつて、記録の徴すべきものもなく、たゞ東印度中の一地形として存してゐたに過ぎない。

たゞ支那人の一部に「ヒンヅージャワ人が、モジヨバヒット王國から、西紀の初期に大舉してボルネオに渡つたことがある。」と記録されてゐるに過ぎない。このモジヨバヒット王國とは、ジャワ島の現在のスラバヤ附近に占據してゐた國で、ボルネオから一衣帯水といふ近いところにあつたのである。この初期渡來者は、ヒンヅー教と佛教の一部を流布した。その流布した國々の中には、バンヂヤルマシ、パサー、クタイ等の酋長國があり、北岸にはブルネイ國があつた。次いで渡來したのは慍悍なマライ人で、忽ちにして其の勢力を伸ばしはじめ、各地に勢力圏を形成するやうになつた。其の後に回教が東漸して來て、異風の文化がこの島にも浸潤し來つた。アラビヤ人は劍を手にしてジャワを改宗せしめたもので、その行く所、到る所、舊い寺院、記念塔を破壊し去り、マライ人をいつしか回教徒に歸依せしめたもので、回教の指導は、マライ本島の全土に及び、一四七八年にはモジヨバヒット朝が没落した爲に、回教に對抗してゐたヒンヅー勢力は一朝にして拂拭され、ボルネオの回教浸潤は急に其の勢を増した。

ボルネオにあつて、マライ人達は回教様式の統治機構で、王國同様なサルタン朝廷を建設するようになり、その統治は原住民を、徵貢、討伐、權謀、舊文化破壊といつたやりかたで、これを強壓したものである。かくてマライ人達は、時の経過と共にボルネオ島からヒンヅー勢力を驅逐したばかりでなく、西岸に一勢力圏を爲してゐたプギス人を逐ひ、ダイヤ人を徐々に壓迫して山地に逐ふに至つた。

支那人もボルネオ開拓の先驅者の一つである。彼等は金、ダイヤモンドの發掘を目的として來島し、諸所に開掘を試み、交易も行ふに至つた。この支那人がボルネオ開發に盡した功績は、舊蘭印政廳でも認めてゐたやうである。

ボルネオで最初に歐洲勢力と角逐したのは、北海岸のブルネイのサルタンであつた。このサルタンと争つた歐人は、ピガフェツタなる者で、これはマゼラン遠征隊の生存者と共に、マラッカからこのブルネイに着いたのであり、年は一五二一年、これがボルネオと歐洲人との交渉のはじまりであつた。このピガフェツタが今のブルネイ國をブルネイと呼び、それが後に變じて島全體をボルネオと云ふに至つたのだといはれてゐる。

其後ずつとポルトガル人とブルネイのサルタンとの商業關係は續けられたのであつたが、ナポレオン戦争後は、この一帯の東印度の島嶼は大體が和蘭領となり、ボルネオ島の三分の二も和蘭に屬することになつた。而して一八〇六年には、英國がボルネオ島の北東に權利を主張して、それを所屬せしめることになつた。これが舊英領ボルネオ、今の北ボルネオである。世界がボルネオ島の存在に氣をつけ出したのは、ジュームスブルックといふ一八四一年に、サラワクの支配者となつた男の奇しき物語が、喧傳せられるに至つてからである。このブルックは幼時から東洋にあこがれてゐたのであるが、東印度會社の所屬軍隊に職を受けることになつてからは、愈々初心を昂め、一四〇噸の小帆船に身を托し、部下若干と共に地中海からマライ半島に假泊して、このボルネオ島サラワクの海洋に着いた。ブルックはここに上陸して、サルタンと一度は争ひ、後に妥協して近海の測量などをし



てゐた。さうかうするうちに、そこに突如として起つたのが、マライの海賊軍の侵寇で、海賊軍はサラワク國中を荒掠して、正にブルネイに入らんとした。ブルネイのサルタンはブルークに援助を求めた。ブルークは蹶起して賊徒を破り秩序を回復した。かくしてブルークははからずもサラワクの王者たることを得る幸運に恵まれた。このブルークと、其後に後を慕つて来た彼の甥とは、銳意治政に當り、相當に良政を行つたものらしく、「サラワク國は原住民の利福については、地球上で一番よく注意が拂はれてゐる國だ」と稱せられてゐた。

ボルネオの北部は相當に治績が擧つてゐたのであるが、南部及び東部はその海洋一帯には、葡、蘭の船舶が相當に往來したものの、内地は少しも知られて居らず、舊蘭印政廳の治績も擧つてゐない。

### 第七節 土俗的信仰と奇習

○ボルネオ土人はギボン（手長猿の一種）を神様と崇めてこれを柱や窓口に彫り飾り、祖先がギボンであつたと信じてゐる。それでカヤン族では猿蹄の儀式を持つてゐる。

○原住民は迷信が深く四十餘のトーテム（魔除）を持つてゐる。

○ボルネオ蕃人は、狗に對しては狗は人間の死後魂を美靈にも悪靈にも導くと信じてゐる。それでカヤン族は兩親の狗の形を様々に刻り、身體の兩肢に入墨し上膊に器具の彫刻をしたりして狗を神聖視してゐる。

○ダイヤ族は從兄弟同志の結婚を禁ずる。もしどうしても結婚したいときには、ベルカブットと云ふ儀式をする。それは豚の血を河口に流し、血浴して夫婦となる。そして豚肉で大饗盛宴をするのである。

○ケンヤ族は廂の下、床下に多くの豚を飼ふ。神様に捧げる爲めに養ひ、又肝臓の裏で吉凶を判断するのに豚は必要である。

○海ダイヤ族（イバン族）人間と鰐とを同祖と信じ、移住のとき土地に鰐の形を掘り供物する。鰐はサラワクの河川に非常に多いが狩ることを禁じてゐる。

○ボルネオのブヌン族は（臺灣高砂族と同祖？）鰐を神様と同視し、疫病神としてゐる。故に木を彫つて廂の下に掛けて疫病を避けるのである。（法術者土語バン）ガラランはこの恐れる鰐取りで儲けてゐるといはれる。

○鷹を靈鳥と信じ、家寶のトンボ玉に鷹の羽型をつけて、幸福を得ようとする。トーテムを異にするものは鷹に對する信仰を別々に考へる。クレマンタン族は鷹の名をバリ・ウトンといひ、飛んで來る方向を善と見、ケニア族はこれを惡と見る。

若し鷹が廣い野で中央に圓を描くのを見ると、全村に惡疫流行すると見ると、鷹が小鳥を捕へるのを見ると敵を破ると大いに喜ぶ。カヤン族は鷹をラキ、ネオと呼び、家の檐下に常住し家を護る神様であると信じて、毎年一回大祭を行ふてゐる。

イバン族の傳説には昔一羽のラキネオ（鷹）がハンチンダイと呼ぶ一人の女を戀して妻とし、一人の男兒と四人の娘を産んだ。

これ等は悉く鷹となり更に二十三人の子供を産み、遂に我等イバン族の祖先となつたとある。

○ボルネオ島にはミングリ、タバノと名づける巨木が高山に野生してゐる。この樹は酋長又は勢力者の世襲財産として、養蜂の目的の爲に相傳されてゐて、研り倒すことは出來ない。蜂は雨期の終り頃にはこの樹に群がり



來つて巢を構へ、原住民は蜜蠟を採り幼蟲を捕へて喰ふ。毎年一定の時期になると蜂がこの木に集る。原住民は夜間松火を巢の近くに持つて行つて蜂を殺して、この蜜蠟を取つてこれを支那人に賣り、巢にある幼蟲は土着民が好物として喰べる。

### 第八節 南ボルネオ(舊蘭領ボルネオ)

#### 一、住民、舊政治形態

(一) 住民 本地方はもと西ボルネオ州及び東南ボルネオ州の二つに分れてゐた。

西ボルネオ州	一四六、七六〇平方軒	八〇二、四四七	人口密度五・五
東南ボルネオ州	三九二、七〇〇平方軒	一三六、六二一	人口密度三・五
計	五三九、四六〇平方軒	九三九、〇六八	

(二)の人口統計は一九三〇年の國勢調査に據るのであるが、その後の十七年間に於ても、さまでの増加は無いと見ゆ。

このボルネオは奥地は交通不便であるが、その海岸はジャワ海及び南支那海との商業路に當つてゐた爲に、昔から各地の民族がいろ／＼と渡來し、移住を試みたもので、マライ人は主として西部に、ジャワ人は南部に、セレベスからはブギス人が東部に夫々定着するやうになり、西ボルネオにはいつの間にか支那人の大量移住を

見るに至つた。そして此等の外來民族の間、及び原住民たるダイヤ族との間に混血族を作り上げた。

ボルネオ島には固有のダイヤ族が居るのであるが、次第に奥地に入り、マライ種族とは宗教、生活、慣習を全然異にしてゐて、回教を奉じない。往昔は首狩の蠻習を存してゐたが、現今では殆んどこの惡習を絶つたやうである。

(二) 舊政治形態 舊蘭領ボルネオであつたこの地は、當時地方分權制度確定の爲、蘭領ボルネオ政府が置かれ、

その長官は、ガバナーで首都バンジャルマシに駐在し、西ボルネオ州及東南ボルネオ州を統轄してゐた。右二州には夫々理事官 Resident が長となつてゐた。この州は更に副理事官 Assistant Resident を長とする郡 Afdeling 及 Controleur を長とする小郡 Onderafdeeling に分れてゐた。

西ボルネオは四郡、十三小郡、東南ボルネオ州は五郡、二四小郡を有してゐた。

尙往昔の王侯サルタンの領地であつた所は、之を併合して名のみ自治領とし、サルタン直屬の原住民官吏をして直接原住民に接觸統治を行はしめたが、監督命令其他一切の實權は蘭人官吏たる小郡長が之を掌握してゐた。自治領にはクタイ、サムハリオン、グノントブル、ボンテイアナ等がある。

#### 二、農業

(1) ゴム

い 栽培ゴム

蘭印に於けるゴム栽培は、エステートゴムと原住民ゴムと二通りがあり、兩者の生産は略匹敵する状態にあつ

二 農業



た。エステートゴムは外領ではスマトラ東海岸州、同アチエ州を主とし、其他スマトラ各地ジャワ、ボルネオ東南部及西部セレベス島北部等に散在してゐる。

一九三八年のエステートゴムの農園數と、植付面積生産額は次の如くであつた。

外 領	栽培中の農園數	植付面積(間作を含む)	生 産 量
ジャワ	五八八	三三九、三二四陌	六三、六〇六、一一九噸
計	五八三	四二一、五三四	一一、四七一、七六八
	一、一七一	七六〇、八五八	一七五、〇七七、八八七

このうちボルネオに於ける農園關係の數字は次の如くである。

西ボルネオ州	東南ボルネオ州	計	栽培中の農園數	植付面積(間作を含む)	生 産 量
一一七	五九	一七六	一一七	七、六八三	七九三、三八一
			五九	八、七七〇	一一、五一五、一六五
			一七六	一六、四五三	三、三〇八、五四六

土着民ゴムはジャワ方面には殆んどなく、外領に全部が存してゐる。特にスマトラ島南部のパレンバン、同ジヤンビ、ボルネオ島東南部のバンジャルマシン、同西部のボンテイアナは、土着民ゴムの四大集散地と稱せられ、クーボンは勿論土着民濡ゴム、半乾燥ゴム、燻烟ゴム、ゴムの賣買極めて活潑であり、又之等原住民ゴムの加工精製工場も、この四地方に集まつてゐる。原住民ゴムの品質はエステート産と比べて粗雑且不揃である。

一九三六年に行はれた原住民ゴム園登録調査の結果、ボルネオに關する分は次の通りであつた。

西ボルネオ州	東南ボルネオ州	計	原住民所有園數	採液可能ゴム樹數	採液未可能ゴム樹數
一一三、二四九	一八〇、三四五	二九三、五九四	一一三、二四九	五七、六二八、四九一	三〇、〇七七、四六八
			一八〇、三四五	六五、四三九、二二二	一一、七一六、二四四
			二九三、五九四	一二三、〇六七、七一一	四二、七九三、七一一

その面積の推定は次の如くである。

西ボルネオ州	東南ボルネオ州	計	採液可能園	採液未可能園
九六、四五五陌	八〇、八〇四	一七七、二五九	一一、五六七陌	一〇八、〇二二陌
			三、〇二五	八三、八三〇
			一四、五九二	一九一、八五二

一九三八年度に於けるボルネオ原住民ゴム輸出量は次の如くである。

西ボルネオ州	東南ボルネオ州	計
三〇、三五四噸	二七、三九〇	五七、七四四

ボルネオに於けるエステートゴムと原住民との關係を見ると、前者の生産量は原住民ゴムに對し僅に一割以内を過ぎない。舊蘭領に於ける農園組織のゴム栽培は、主としてジャワ及スマトラ兩島に發達したものであつて、ボルネオに於ては東南州に邦人經營のものとして、最も有名な野村農園を初めとして東拓農園及び金子農園を主





とし、其の他は何れも小園に過ぎない。また歐人の経営であつたものもその数は極めて少なく、バンジャルマシ  
ン上流ウルスガイ地方にあつた英人資本のハコツプ農園の他には二、三の小園のみであり、西部ボルネオ州に於  
ては邦人經營のものに住友のスランジン園、元島園及び渡邊園等を初めとし、比較的小園であり、外人園として  
は支那人經營のもの數園を算するに過ぎない。全東印度のエステート生産量に比しボルネオエステートゴム生産  
は一九%に相當してゐた。

土着民ゴムは舊蘭印ボルネオに於ては舊全蘭印土着民ゴム生産高に對しては、スマトラのチャムビ、パレンバ  
ンと並んで最も大なる比較を示してゐる。

一九四〇年度舊蘭印土着民ゴム割當量

地 方 別	基 準 率	追 加 率	生 産 量
アチエ及屬領州	〇・六一%	一・二〇%	二、八九四噸
スマトラ東海岸州	五・九四	五・六〇	一八、一四六
ベンカリス州	六・三三	二・八八	一四、二四五
タパヌリ州	三・九二	九・三八	二一、三五〇
スマトラ西海岸州	二・八九	三・四九	一〇、〇九一
リオ島及屬領州	二・九七	二・七五	八、九九〇
インドラギリ州	五・六二	一・三五	一〇、六五七

パンカ及屬領州	一・四六	二・〇五	五、五七一
ジャヤンビ州	一五・五九	一〇・六七	四〇、九八三
パレンバン州	一四・一九	三三・五〇	七六、五三五
西ボルネオ州	二一・〇九	一六・〇三	五八、〇七二
東南ボルネオ州	一九・三九	一一・一〇	四七、三九二
ジャワ及マヅラ	—	—	五、六〇八
計	—	—	三二〇、五三四

舊蘭領ボルネオに於て土着民ゴム生産の中心をなす所は、東南州ではウルスガイ地方、西部に於てはボンテイ  
アナ附近及びその奥地即ちアンバヴン、スケラツプ、ランダ地方及びカブアス本流の兩岸地方を主とする。この  
他の地方にも原住民ゴムは産出するがその量は微々たるものである。

る 野生ゴム類

- I グタベルチャ 海底電線被覆用とせられる。
- II ジェルトン チューインガム原料として主として米國へ輸出されてゐた。
- III グタカチヨウ リノリウム又は模造皮等の製造原料
- IV グタハンカン 同 上

これらの野生ゴムは、東南ボルネオのゴム輸出港たるバンジャルマシン港から輸出されてゐた。一九三九年度  
輸出量及全舊蘭印輸出量は次の如くである。



第八節 南ボルネオ(舊蘭領ボルネオ)

三八

品 種	パンジャルマシン港輸出量	金 額	舊蘭印全輸出量	金 額
グタハンカン	三九七、八一八	二、三三三、一三〇、〇〇〇	一、一一四、四六三	三、二二、四八七、〇〇〇
グタカチヨウ	八四〇、三八〇	九七、〇三八、〇〇〇	一、二四三、二七七	一四六、五五三、〇〇〇
グタチヨロトン	二、五五〇、五一九	一七五、四三二、〇〇〇	七、一七九、五三六	六六〇、三八八、〇〇〇
グタベルチャ	二、三〇〇、〇〇〇	一八、一六四、〇〇〇	六一、〇〇〇	四七、九四一、〇〇〇

(2) コブラ

コブラはココ椰子樹(馬來語 Pokok Kelapa)から採取されるもので、舊蘭印の至る所に栽植され、土着民の生活には必要不可欠のものとなつてゐる。これが農園に於て栽培されるものは極めて少なく、過去の統計によると、農園生産物は土着民生産物の八〇%に過ぎぬ有様であつた。ボルネオに於ては椰子栽培は殆んど土着民の獨占であつて、西部東南州を通じて多少の農園はあるが、その数は極めて少數である。

舊全蘭印のコブラ輸出は六十萬噸を超えてゐたが、その内ボルネオは約十四%の八萬餘噸であつた。而して東南ボルネオ州は西ボルネオ州の五%に過ぎないから、コブラは西ボルネオの主要なる生産品となつてゐた。

一九三八年度ボルネオに於ける椰子農園の状態は次の如くである。

	椰子園數	稼行面積	生産コブラ噸數
西ボルネオ州	一二	五二六陌	五七七噸
東南ボルネオ州	一六	六一一	四八四
計	二八	一、一三七	一、〇六一

同じく原住民栽培のものの輸出量は次の如くである。

單位噸

	一九三四年	一九三五年	一九三六年	一九三七年	一九三八年
西ボルネオ州	七〇、七一三	七〇、五〇六	七六、七八六	七四、二四〇	八一、七一五
東南ボルネオ州	七二一	二、三八〇	二、三三三	二、三三八	三、一七六
計	七二、四三四	七二、八八六	七九、一一九	七六、五七八	八四、八九一

このコブラは自家消費が莫大であるから、眞の生産量は大量なものであることが考へられる。原住民一人當りのコブラ消費量は年九七キログラムといはれ、椰子油の消費はジャワに於て一人當り二・五リットルと見られてゐる。

西ボルネオ州に於ける主産地はボンテアナ、シンカワン、パーマンカ附近であつて、此等諸地方は殆んどボンテアナ港を輸出港としてゐる。東南ボルネオ地方に於ける椰子栽培は何れの地方にも多少の栽培を見るが多くは自家用に止まつて居り、販賣に出るものは至つて少い。ウルスガイ地方の原住民部落特にカンダガン及びバラバイ附近を主とし、東海岸にあつてはサマリダ、マハカム流域或はバリクババン、ベラオ、タラカン附近等には相當に多い。

ボルネオに於けるコブラ製造は殆んど支那人の獨占する所であつて、支那人は前貸金貸付によつて原住民から採取した椰子實を買取り、その外殻を剥ぎ白い果肉を採つて乾燥し、コブラを製造する。之が海外に輸出されて、油脂工業の原料品となり、又一部は製油工場に送られて所謂椰子油となる。この椰子油は原住民の必需品で干魚は必ずこの油で揚げものにして食用に供せられるのであり、女の美髪用としても珍重せられるのである。



(3) 胡椒

舊蘭印は世界の胡椒産地として有名なのであつて、全世界の輸出額の過半を舊蘭印で占めてゐるのであるが、舊蘭印内の胡椒の産地は外領であつたスマトラと、このボルネオの兩島及び附近の島嶼に限られてゐたのである。而して、この生産に従事してゐる者は主として支那人と原住民である。

胡椒農園は一九三八年の統計によると東南ボルネオ州に二園あり、その生産面積六一陌、三二、三四〇疇の生産であつた。

支那人、原住民の栽培にかゝるもので、一九三八年度に輸出した額は次の通りである。

西ボルネオ州	七二三噸
東南ボルネオ州	一、九八九

計 二、七二二

舊蘭印全體の一九三九年度胡椒輸出高は六萬九千七百噸、價額九百八十萬盾であつた。

東南ボルネオの中でも最も栽培の盛んな所は、ボルネオの南東にあるブラウラウト島内の各所及び其對岸なるボルネオ本島の沿岸一帯であつて、主としてブラウラウト海峡に面する部分、バガタンより北にパシルに達する間である。

西ボルネオに於ける主要産地は主としてシンカワン方面からサンバス附近であつて、同地方に於ける栽培は土着民よりも支那人の栽培者の方が多い。舊蘭領に於ける農産物中、原住民農園の生産物は頗る重要な位置を占めてゐるのであるが、この胡椒栽培の如きは、特にその著しい例で、全生産量の九七%までが原住民農園の所産

である。

(4) ガンビル

ボルネオに於けるガンビル栽培は、殆んど西ボルネオに局限されてゐる。その西ボルネオの中でも最も栽培の盛んなのは、シンカワン方面である。ガンビルの栽培はエステートなると原住民園なるとを問はず、又、栽培者が、原住民なると支那人なるとを問はず、殆んど總てがゴム樹、又は檳榔子等の他作物との混作である。

ガンビルの製造は殆んど支那人の獨占事業となつてゐて、一九三八年度に於ける西ボルネオ州よりのガムビル輸出高は二、二五六噸であつた。

(5) 米

ボルネオには、東南部及び西部地方を通じて水田及水田に適する土地が廣汎に存してゐる。現在水田として最も纏つてゐる地域は、ウルスンガイ地方であつて、同地方には現在水田になつてゐない部分でも、僅かの手數と工夫を加へたならば水田となり得る土地が多い。

こんな風に比較的廣大な稲作適地があるのに、原住民はゴム價の高かつた時代に生活が安定してゐたことが習慣となつて、依然として餘り米を作らず、その半數以上の者は外來米を購入して生活してゐる。この水田適地の外に、年々多大な面積に亘つて陸稻栽培が行れてゐる。ダイヤ族は陸稻栽培と狩獵とを以つて其の生業として來た關係上、何處でも陸稻栽培が出来ると思ふ土地では、處女林を伐開き焼拂つた土地で栽培を爲し、決して同一の土地を繰返して耕作しない。だから年々奥地へ／＼と侵入する爲、その年々の森林濫伐は相當な面積に上るのである。南部バンジャルマシンの奥地には、ラン草地帯に放火して之を焼却するのであるが、乾燥期に乾燥が



甚しい爲其後に稚樹が成長せず、空しくランの一大草原帯となつてゐる所もある。陸稻の栽培は毎年十月頃迄に伐材焼却をなし降雨を待ち、播種には五呎位の棒の先で適當の距離に深さ一吋内外の穴を付け、四、五粒の粃種を下種するので收穫は翌年の三、四月頃である。

水稲は十月頃に水田の手入を行ひ、十一月末から一月頃にかけて播種及本植を行ひ、五月―六月頃收穫する。植付後の手入は一回―二回の除草を行ふだけである。

ボルネオに於ける米の生産量は、統計がないのでこれを推定することを得ない。

今ボルネオ二州に於ける輸入超過米は次の如くである。

(單位施)

西ボルネオ州	一九三四年	一九三五年	一九三六年	一九三七年	一九三八年
東南ボルネオ州	二七、六〇〇	三〇、七四六	三八、四二八	四一、六九五	四五、五九三
計	三〇、二六九	二九、九九一	二二、八四三	二二、三八七	三六、九二五
	五七、八六九	六〇、七三七	六一、二七一	六三、〇八二	八二、五一八

⑥ 其の他の農作物

以上の外に、タピオカ、サゴ、カボツク、玉蜀黍、甘蔗等の産出があるが、これは主として自家用に充てられ、餘剰として輸出さるゝものは極めて少量である

三、林業

(一) 一般

西、東南ボルネオ州の森林面積は四千六百六十四萬二千陌であるが、これは兩州の七割を占めて居り、鐵木と稱する絶對に腐らぬ硬木を初め、日本内地でラワン材といはれる各種材及びバルブ原料として有用な軟木ビノアン、カラン、パヤン等の有用材に富んでゐる。西ボルネオよりも東南ボルネオの方が森林資源に優つてゐる。一九三八年度の兩州の木材生産額は、三三二、九三四立方メートルであつた。

この西、及東南兩州の木材資源に對して邦人商社の活動は次の如くであつた。

(單位立方メートル)

南洋林業株式會社	一九五、〇〇〇	二〇三、〇〇〇	二二〇、〇〇〇
ボルネオ物産商會	八〇、〇〇〇	一三二、〇〇〇	一四八、〇〇〇
雪本商會	五五、〇〇〇	五〇、〇〇〇	四五、〇〇〇
計	三三〇、〇〇〇	三八五、〇〇〇	三〇四、〇〇〇

南洋林業株式會社は東海岸サンクリランに五萬陌の伐材を行ひ、ボルネオ物産商會はサマリンドに於て、雪本商會はバリツクパパンに於て、夫々ラワン材の内地積出しを行つてゐたのである。

其他に支那人經營のもの及び原住民經營のものが、サマリンド上流マハカム河流域にあるが微々たるものである。往時は蘭人經營のものもあつたのであるが人件費關係で續かず、一九四〇年に至つて、舊蘭印林野局直營の伐木事業が南部のサムピット方面に開始されようとして、そのまゝになつてゐた。

製材は主として東南ボルネオに於て、パンジャルマシシ附近及東海岸サマリンド、バリツクパパン、タラカン等に行はれ、西ボルネオに於ては、ボンテイアナに、支那人經營のもの數工場で行つてゐる。



(二) 林産物

イ、ダマル 龍腦樹科に屬する樹木から溢出する樹脂に對する名稱である。ボルネオには龍腦樹科が非常に多く、ダマルの種類も多數あるが最も品質優良なのはダマルマクテンである。その輸出は主として東南ボルネオで行はれ、バリト河の上流地方並に東海岸マハカム河上流より多く産出する。一九三九年のバンジャルマシンの輸出量は三〇三、五一〇疋金額にして一九、五八四盾であつた。

ロ、ロタン(藤) 西ボルネオでは、ボンテイアナを主要輸出港とし其の他では僅少である。東南ボルネオでは、バンジャルマシンの地方の奥地一帯、及びサマリダ附近を主要産地とし、北方ではブルガン及びペラオ、東南海岸のパンル、サンピットの奥地がロタンの産出地である。バンジャルマシンの港からの一九三九年の輸出額は、五、二〇七、四五七疋二二、四三二盾であつた、其他の港灣からの輸出もあるが、統計に擧げられてゐないから不明である。

ハ、カツチ マングローブ樹皮から抽出する鞣皮原料であるが、ボルネオ全島の海岸が廣大なるマングローブ森林で蓋はれてゐるので、その原料は豊富である。カツチの原料たる樹種の中主なるものは、バカウ、及びテンガルである。

四、鑛業

1 金 西ボルネオのシントルーには明かに接觸變質作用で出来、且つ花崗質岩を伴ふ金鑛床があり、鑛床は石玢岩と接觸變質で堅硬になつた凝灰岩の間に介在し、此の鑛床は石英方解石、赤褐石の石榴石、綠色輝石、

蟲石、陽起石から成りそれに自然金及び蒼鉛、テルリウム、硫黄を含んでゐるのである。

十九世紀の後半から西ボルネオの各地に金の掘開が試みられたのであつたが、何れも採算がとれずに閉鎖され、最近では西ボルネオ及東南ボルネオを及通じ三、四の金鑛採掘會社があるに過ぎなかつた。

一九三七年には、西ボルネオ州から六、四八六瓦、東南ボルネオ州カブアス及びバリト方面から十二疋、マルタプーラのチュンバカ附近から一、六九八瓦の産金を見た。

2 鐵 鐵の埋藏量は十二億噸と推定され、主として磁鐵鑛であつて、鑛床の上部では赤鐵鑛に變化してゐるとされる。東南ボルネオのコタワリンジン附近に多く、其の分析結果は、次の如く示されてゐる。

Fe <sub>2</sub> O <sub>3</sub>	91.2
Al <sub>2</sub> O <sub>3</sub>	0.3
SiO <sub>2</sub>	2.74
MnO <sub>1</sub>	1.60
Ignition	3.97

鑛床として擧げられてゐるものはスガイドウ地區、セブク島、スワンギ島、バンジャルマシンの附近、マタン地方のものであるが未だ、本格的な採掘には入つてゐない。

3 マンガン マンガンの存することは信じられてゐるが、未だ確たる調査がない。一體マンガンは鐵と共に発見されることが多いので、鐵鑛床のあるときにはマンガンも併存することは確かなのであるが、しかし、鐵とマンガンの併存は一方が多ければ一方が少いといふ逆比例をなしてゐる。これを實例によつて例示すると次の如くである。



鐵	マンガン	マンガン層の厚さ
二六、六八	九、二九	三〇 cm
九一六	三五、二七	一〇 cm
三、八二	四二、三二	二〇 cm
三、六五	五七、八九	八 cm

4 水銀 水銀ではないが、辰砂が西部ボルネオ地方に、時には金と共に、沖積層床中に見出される。東南ボルネオの砂金産地では水銀も見ると云はれてゐる。

5 銅 花崗岩及び其の周囲の接觸變質を受けた岩石中に鑛脈及び岩脈を成してゐるので、西部ボルネオのマンドール、ベンカジャンには石英、方解石、黄銅鑛、孔雀石、赤銅鑛、銅藍、黄鐵鑛を含む鑛脈の存することが判明してゐるが本格的な調査は爲されてゐない。

6 錫 西ボルネオに砂錫が産出することが判明してゐるが未だ重視されずに棄てられてゐる。

7 白金 東南ボルネオ州(マルタブラ)の金及ダイヤモンドを含む砂鑛床から採取されてゐるが、現在は年産一匁といふ微量である。

8 クロミウム クロム鐵鑛は鹽基性岩及び過鹽基性岩中に分結鑛脈として産するのであるが、東南ボルネオに近いプルラウトの海岸近くに産出を見てゐる。

9 モリブデン(水鉛) 輝水鉛鑛は西ボルネオの花崗岩中の細かい鑛脈中に存してゐる。

10 蒼鉛 西ボルネオに少量を産出する。

11 アンチモニー 色々の點から判断してボルネオに産することは確實とされてゐるが、未だ有望なる鑛床は發見されてゐない。

12 石油 ボルネオの東海岸に沿うて褶曲構造及び稍々延長したドーム構造があるのでボルネオ東海岸部の油田は極め豊富な油量を存することが判明してゐる。東ボルネオのタラカン油田から採取されるものは重油で、クタイ地方から採れるものは燈油とパラフィンである。油田の深さが異なるに従つて石油の性質も異なるものであることは次の分析表によつてもその一斑が判る。

(1) 東ボルネオの油質(サンガサンガの油田)

深度(米)	比重	沸騰點(度)	分溜%	パラフィン%	重い炭水化物%	硫黄%
〇—一五〇	〇九六〇	一〇四	一	五〇〇	一三	二二
一五〇—三〇〇	〇九六三	一〇四	一	五〇〇	一三	二二
三〇〇—四五〇	〇八六八	充	三五	四	七五	四五
四五〇—六〇〇	〇八六四	七〇	三六	四五	一〇	三三

(2) 平均分析

	比重	分溜	残渣
タラカン	〇・九五〇	〇—一五〇度 一五〇—三〇〇度	六一
サンガサンガ	〇・八五一	一五	三五
四礦業			四七



上記の如くボルネオ油田は主として東南ボルネオ州北部のタラカン島及び其對岸一帯及び同州の中央部を貫流するマハカム河(一名クタイ河)下流のサンガサンガである。サンガサンガ油田からは送油パイプがバリツクバパンに通じ、その製油所で精油を行つてゐた。戦前はバターフセ石油会社が獨占的に採油製油を司り、其の間に三井、日本石油の投資でサンクリランにボルネオ石油会社が交つてゐた。同会社は十年の試験で昭和十四年に日産五噸の採油を見るに至つたが、其の後油量はあまり伸びてゐない。

13 石炭 ボルネオに於て第三紀の新期及古期の兩時代の地層中のものが採行されてゐる。南ボルネオには始新世のものがあり、これはブル・ラウト島の北部に連なつてゐる。このブル・ラウトの地下の構造は深い鑿井によつて確かめられたところによると、その砂岩及び頁岩の一〇〇米の厚さの中に五枚の炭層があるが、その中最下のものは石炭と云ふよりも、寧ろ瀝青質頁岩と呼ばれるべきもので、他の四枚は夫々 〇・六、一・六八、〇・五、一、一八米の厚さで何れも北西に傾斜してゐる。東部ボルネオでは中新世初期から鮮新世へかけての石炭が廣く分布してゐる。良質の炭層のあるものは以前から採行され今日も尙發掘されてゐる。マハツナ(クタイ河下流)のもの全厚一〇―二米に達する八枚―十五枚の採行し得る炭層が發見せられ、ベラウでは十一枚で二〇米に達する炭層が發見されてゐるが、その成分はクタイ河沿ひの下部中新世の石炭に相當してゐる。尙ほベラウ河の下流では二十一枚で三米に達する採行し得る炭層が發見されたが、此の石炭は三〇%の水分を含んでゐる。今ボルネオの石炭の含有分を表示すると次の如くである。

産地	灰分	水分	固形炭素	揮發分	カロリト	炭素	水素	酸素	窒素	硫黄
東南ボルネオ										

クタイ	一〇一	一三三	五五五	三三三	五五〇	七〇	五三	二〇・二	二	三三
ベラウ	一五二	一七六	五四六	三六三	四九〇	七〇	四七	三三・四	三五	〇四
ブルラウト	一六七	五七九	四九三	三八三	五五〇	七六	七三	―	一六	―
ベンガロン	五三	四六	五二四	六七	六四〇	七	六	二五	一四	〇六

従來ボルネオの採炭は主としてKPM汽船會社の手で採掘され、船舶用として使用されてゐた。ブルラウト島には、もと官營の炭坑があつたのであるが、一九三二年の炭價安以來は採炭を中止してゐた。今炭坑別に石炭生産高を挙げると次の如くである。

(單位噸)

産地	一九三五年	一九三六年	一九三七年
ロアクルー(マハカム上流)	七一、六一五	七六、二一四	八三、六六四
ロアブキツト(ロアクルーの奥)	三三六、六八三	二九、九三六	三三三、五四〇
アアヤン	―	―	七四九
ラントウパンジヤン(ベラウ)	二六三、〇〇〇	二五三、四〇〇	三〇三、四五〇
原住民經營ロアテデー	四八、六八九	四八、二六四	四五、八四九
計	四一九、九八七	四〇七、八一四	四六七、二五二

14 ダイヤモンド 西ボルネオ第四紀の礫層中及び現在の河、特にランドツク河、セカヤンの砂礫中から獲られる。島の東南部ではマルタブラが産地の中心である。この附近ではダイヤモンドの母岩は白堊紀のセノマニア世の橄欖岩及び蛇紋岩であらうと考へられてゐる。しかし又、第四紀層中にもダイヤモンドが存するが、之等



は直接に母岩から離れて来たものではないかも知れないのである。兎に角現在第四紀層の砂礫中にあるダイヤモンドは最初は第三紀層中に集まり、それが更に風化侵蝕等の結果第四紀の河床に沈積したものであらうと考へられる。ダイヤモンドの産出は蛇紋岩地方に見る岩石中の裂隙と關係があるらしく、ダイヤモンドは蛇紋岩が之等の裂け目で破壊されてゐる附近の若い地層堆積中に特によく發見されるのである。西ボルネオでは橄欖岩を含む岩石がダイヤモンドの母岩と考へられてゐる。ダイヤモンドと最も普通に伴つて來る礦物は鋼玉、板チタン石、綠簾石、電氣石、藍晶石、石榴石、尖晶石、風信子鑛、黃玉、紅玉、金等である。東南ボルネオでは特に少量の白金がよくダイヤモンドと一緒に産し、又含チタン磁鐵鑛クロム鐵鑛等は常に之等の礦物中に混じてゐる。ダイヤモンドの産地としては東南ボルネオ州マルタブーラのチュンパカ村附近が有名で主として附近の原住民の手によつて産出されてゐる。マルタブーラには研磨工場があり、近年の産出は年千六百カラット、三萬八千盾程度であつた。

15 沃素 極めて微量である。

16 水質 一般に若い火山に近い地域では鑿井が成功してゐるがボルネオのやうな、それと離れた地域では鑿井で十分の地下水を得ることは困難であり、それに海岸に接近するに従ひ、鹽分の含有量を増すやうである。

五、貿易

(一) コブラ輸出高

輸出 港

風袋付重量

一九三八年

價

額

ボンテイアナ	四一、六七五、九六七疋	二、七七七、二九一盾
シンカワン	四、七八〇、三一一	三三三、三九一
ベマンカット	二六、八四二、〇三七	一、七二五、四七四
ケタバン	一三〇、九八九	九、五一九
パンジャルマシ	三、八九八	三八三
サンピット	二七、四一三	二、六一〇

(二) 港別貿易

(比率)

港別	一九三二年	一九三三年	一九三四年	一九三五年
ボンテイアナ	六、四二六(千盾)	四、四二六	三、八〇九	三、六〇八
パンジャルマシ	(三・七)	(三・八)	(三・八)	(三・七)
その他	二、七九二	二、〇五一	一、九〇一	一、八五七
	(一・六)	(一・八)	(一・九)	(一・九)
輸出	一九三一年	一九三二年	一九三三年	一九三四年
ボンテイアナ	九、五三〇	五、七〇二	五、九三〇	五、六三〇
	(二・四)	(二・〇)	(二・二)	(二・九)



は、輸出入計

バンジャルマシン	五、二九三	二、三九七	三、九九六	七、五六九	四、八九七
	(一・三)	(〇・八)	(一・四)	(二・六)	(一・八)
ポンティアナ	一五、九五六	一〇、一二八	九、七三九	九、〇一八	八、四四八
	(二・八)	(二・五)	(二・六)	(二・三)	(二・三)
バンジャルマシン	八、〇八五	四、四五五	五、八九七	九、四二六	六、五六四
	(一・四)	(一・一)	(一・六)	(二・四)	(一・八)

六、交通

(一) 陸運

道路 ボルネオに於てはポンティアナより西部の都邑を連絡する道路、バンジャルマシンを起點として奥地のゴム栽培地帯及び南東沿岸に自動車道路が通じてゐるに過ぎない。其の他は何れも河川を利用して内部地方との連絡にあつてゐる。バンジャルマシンよりバリクパパンに至る道路は現に工事中である。

(二) 水運

内國航路 舊蘭印政府は内國航路の確保を重視してカー・ビー・エム汽船會社をして命令航路として之に當らしめ年二十萬盾の補助金を與へてゐた。

い、河川水運 河川其他の内國水運はカー・ビー・エムの外、支那人原住民の小型汽船又はモーターボートによ

つて行はれ可なり奥地まで溯航してゐる。  
ろ、外 國 航 路

ボルネオ主要港の船舶數及び其の噸數を示すと次の如くである。

	一九三一年	一九三二年	一九三三年	一九三四年	一九三五年
ポンティアナ	九四一隻	八五七	七九六	六七五	五七七
	五二七噸	四七三	三八二	四九七	四七六
バンジャルマシン	三〇八隻	三三二	三四〇	三七五	三六三
	五三五噸	五五四	五六七	五八六	五五〇
コタバル	四七八隻	四九八	三九六	四一九	三六八
	六五六噸	六〇四	五八六	五四一	五二九
バリックパパン	一、三〇四隻	一、二四九	一、二七六	一、二八四	一、三一七
	四、四四二噸	四、一五九	四、一九五	四、一九七	三、八五四
サマリング	一、一四五隻	一、〇三八	一、〇〇三	一、〇一五	一、二四七
	八七四噸	九二六	九〇〇	八二九	九二二
タラカン	四一五隻	三八五	四二〇	四四七	五三三
	一、二一六噸	一、四〇八	一、四三九	一、三五七	一、三七五

(三) 無線電信

舊蘭印には官營無線電信局四九局を數へたのであるが、舊蘭領ボルネオに於ての所在地は次の七局であつた。



ポンティアナ、バンジャルマシン、コタバル、ブルラウト、サマリンド、タナゴロゴツト、タンジョンセロル

### 七、労働事情

舊蘭印政府は労働者保護政策に於て、ジャワと其他の外領とに依つて著しく相違してゐた。外領では、極度に苦力保護の政策を採り、企業家にも義務負担を強いて来た。ジャワではこれに反して一般に文化も進み衛生設備、娯樂設備等が行き渡つてゐるのみならず、人口稠密で苦力なども自由に得られる等の關係上、割合に企業家側の義務負担が軽減されてゐた。

舊蘭印政府は外領に於て苦力保護の完璧を期する爲とて、労働監督官を配置して苦力條例の施行を厳にし、更に企業の種類、地域の事情等に應じ附帶的義務を負担せしめ、相當に企業家側を壓迫してゐたもので、殊に邦人企業に對しては風當りが強かつたものである。

イ、募集機構 邦人會社に於ては、次の如きやりかたで苦力を募集してゐた。募集地域に顔のきく原住人苦力頭をセレベス島等に派出し一回百名内外の募集をするのであるが、苦力頭はこれを四、五回に分割して事業地に送る。先づバレーパレ港に集め、ここより支那人のモーター船に乗せサマリンドに送り、それから乗換へてサンクリランに送つて来るのである。

ロ、募集の方法 募集は次のやうな條件で行はれてゐた。

い、募集地に於ける労働者の滞納税金の立替拂  
ろ、募集地に於て前貸金の一部貸出

は、募集地より事業地迄の本人及び家族の運賃、食費負担  
に、事業地に於て契約に際し前貸金五盾を貸與  
ほ、労働契約の内容を充分に會得させること

ハ、賃 銀

い、日給制 一日働けば一日分を與へるのであるが、仕事にあまり身を入れないようである。よく監督し得る苦力頭が少ないので作業ははかどらないこととなる。

ろ、請負 出来高拂は出来高を契約による單價によつて計算支拂ふものであり、普通請負といふのは事前評價で請負しめるので、此の兩者は最も適當なる使役方法である。

ニ、標準 賃 銀

東南ボルネオ森林伐採では一日四十五仙、一箇半年の昇給五仙の程度でバンジャルマシンのゴム園では二十七、八―三十二、三仙である(ジャワでは平均二十仙位)

ホ、生 活 状態

一人一箇月九盾位

衣、一人 二、五盾 食 五、五―六盾 其他 一盾

(ジャワでは一日四―六仙で食し得るといはれる。)

夫婦者の一箇月経費は、十二―三盾位とされてゐる。

苦力は朝食は、コーヒ、バナナの揚物、晝、夕食は米、副食物として干魚の油揚、野菜(唐辛子を添へる)



副食物が豊富でないので、栄養不良の者が多く病氣に罹つたときに抵抗力が極めて弱い。衣類は、至極簡単で、平時はサロン、上衣、下シャツ、猿又で、裸足で歩く、寝具は殆んど所有して居らず、莫産一枚の上に寝起してゐる。

一般に賭事が好きで、手持金が少しでもある限りは晝夜のわかちなく賭博に耽つてゐる。音楽を好むことは異常なもので月夜には、ギターを鳴らしコロネチオンを唱ふて深夜までも遊んでゐる。

## 八、主要都市

バンヂアルマシシ 約六萬五千の人口を有するボルネオ第一の都會で南東部ボルネオ州の首都である。ボルネオの南岸に注ぐバリト河の支流マルタブラ河に面し、棧橋の設備も整ふてゐるが、河幅が狭く二千噸級の船舶の出入すら不自由なのである、州下に於ける輸出入貿易の重要港で、背後には廣大な農業地帯を控へ、原住民のゴム、米の集散地である、バリト河は小蒸汽船の航行に利便があり上流のムアラ・タウエまでにも遡航し得る。その附近には金、金剛石で有名なマルタブラがある。

ポンティアナ 人口約二萬二千餘で西部ボルネオ州の首都であり、カプアス河口に近く、ランダクと稱する支流がカプアス河の本流に合する地點に位置してゐる。

當地は西部ボルネオに於ける最重要の商業地で、輸出入貿易商も多数存してゐる。華僑の勢力の旺んな處で、ジャワよりも舊シンガポールの影響を強く受けてゐた處である。近郊の物産としてはコブラ、原住民のゴム、藤等がある。ランダクは邦人小農企業の中心地をなしてゐる。

バリクババン 南東岸に注ぐセム河の河口にある良港でBPM(バターフェ石油會社)の所在地として發展し來つたもので、一般商港としては見るべきものはない、港灣施設としては税關棧橋、BPM所屬棧橋、倉庫などを備へ、タラカンからスラバヤに通ずる航空路に當つてゐた。人口三萬九千、政廳、税關、港灣部、郵便局、警察署、病院、小學校などの設備があつた。石油工業の中心地でBPMの精油工場、試験工場、發電所があり、パラフィン工場は世界最大最良の設備を有してゐた。

## 九、南ボルネオ(舊蘭領)の近情

### (一) 一般

軍當局の努力により治安は全く回復して着々建設の新段階に入り重要資源開發調査團、經濟關係者等の渡來によつて産業開發も巨歩を踏み出した。

鑛業方面ではボルネオは石油が第一で、これは現地軍當局や、技術陣の献身の努力によつて段々復興を見せてゐる。次は石炭で、これは非常に埋藏の豊富なことが瞭らかなり、目下現地技術者によつてどん／＼採掘されてゐる。

マンガン鑛は、バンヂアルマシシ附近で有望な鑛脈が発見され、年内に相當量を内地に送ることとなり大に力を入れてゐる。

金は、舊蘭印時代にはあまり關心を拂はれてゐなかつたが、これは砂金には相當に有望なものがあることが判明された。



水銀、プラチナ、クロームなどの稀金屬の類も相當豊富に賦存してゐることが判明した。農林水産方面では米は毎年八萬噸以上の不足で、ジャワ、セレベス、バリ島等から移入を仰いでゐたのであるが、これは差當りは、同様の移入に待つとして、將來は食糧自給でゆくべきで、取敢へず優良品種をジャワ島から移入し、これを現地農民に義務栽培させることにした。

林業は石油に匹敵するものであつて二十萬噸の木材を輸出してゐるのであるが、これは南洋林業、ボルネオ物産、其他の邦人商社が從來からサンクリラン、サマリダ方面で活躍してゐたもので、木材には鐵木、パンキライ等の建築用材、棧橋用材等の優秀なものが豊富なのである。其の他特殊な用材としてはバルブ用材、マツチ軸用材等が南部サンピツト地方に澤山ある。

水産業としては製鹽は從來全然手を付けられてゐなかつたのであるが、これも適地を見つけて製鹽を起すことに方針が定まつた。

漁業は魚族類が非常に豊富なので、邦人指導指定業者の指導をまつて原住民に徐々にさせることになつてゐる。

工業方面にはみるべきものは全くないが、これも現地自治の方針に即應して將來はある程度の振興を計ることになつてゐる。

商業方面は華僑に掌られてゐるのであるが、物價高を抑制する爲に配給統制が實施され住民は之に歡喜してゐる。從來生活必需品の全部をジャワに依存するやりかたであつたので急速に自足自給といつたことは困難であるが日を追ふて不足物産の生産に當らせる方向に進めつゝあるのである。

## (二) ボルネオ華僑過去を清算

ボルネオ派遣軍當局は管轄下二十萬の華僑に對し新軍政の指導方針を徹底せしめると共に抗日不良分子を一掃してゐるが、二十七日北はサンダカンより南はクチンにいたる各地の華僑代表三十名が派遣軍本部に出頭し、從來の援蔣援英の過去を清算して皇軍に對する絶對の信頼と忠誠とを誓ひ、國防献金として三百萬圓を献金したき旨を申出でて來た。

## 第九節 北ボルネオ 其一(舊英領北ボルネオ)

### 一、舊政治形態

舊英領北ボルネオは面積約七六、四〇三平方杆、皇國の北海道位の廣さであるが、其の人口は二十七萬—三十萬といふ稀薄さである。この北ボルネオの經營は北ボルネオ勅許會社といふ一營利會社が、英國皇帝の勅許を得て政治を行ふといふ世界に類のない特殊な形式の下に行はれてゐたのである。然し外觀は普通植民地と同様の形式を備へ、總督の下に民政長官を初め各部長官があつて國の政治を司つてゐたのである。即ちこれらの役人は會社員であつて同時に政府の官吏であつた。それが爲に右の如き現地に於ける政治機關の上に同社の重役會がロンドンに在つて、此の重役會が政治上の指揮權を掌握し、重役會で決定した事項を現地總督をして施行させ、また現地總督からは現地の情勢に應じて種々の意見をロンドンの重役會に建言、其の決定を仰ぐといふ仕組みであつ



た。従つて總督の任命なども重役會の選んだ人物を英國政府に推薦し、皇帝の名において任命することになつてゐる。此の點は同じ英帝國の植民地でも他とは趣を異にし、従つて地位もズツト低いものではあつたが、然し乍ら一國の總督としては相當な威容と地方民の尊敬を受けてゐた。

此の國が若し英本國の直轄植民地であつたならば、此の國の開發も恐らくもつと早く、もつと立派に行はれたものではなからうかと思はれる。それは本來が一個の營利會社であり、北ボルネオを經營することによつて生ずる利益を所謂會社利益金として、同社株主に配當しなければならぬ。即ち利益金の大半は先づ株主配當に向け、剩餘を以て國內開發の費用に振り當てる建前であつたから國內に於ける文化的諸施設は遅々として進捗せぬといふ譯であつた。

今、行政機構の一端を挙げると次のやうな機關によつてゐたものである。

- 1 會社は英國法人としてロンドンに本據を置き、重役會を最高機關とし、重役會は議長一名、副議長一名、理事五名―七名を以つて構成する。
- 2 重役會は總督を選び國務卿の承認を経て之を北ボルネオに駐在させ、首都サングカンとアビ(舊名ゼツセルトン)に交互駐在させ、直接統治の任に當らしめる。
- 3 總督は立法、司法、行政の三權を掌る外、巡憲司令長官をも兼ねる。
- 4 總督の下には左の職員があつて行政の事務に當る。
  - 中央 總務長官、同次長、財務・土地・警保・司法各長官、會計検査院長、醫務・遞信・勞働各長官及勞働監督官

地方

理事官(知事) サングカン、クダツ、東海岸(タワオ)

西海岸(アビ) 内陸(テノム)の各州に一名

サングカン州に次の郡長、副郡長が各駐在する。

サングカン、ラブツク、スグツト、キナバタンガン(副)

クダツ州に次の一郡長が駐在する。

テムバン・パツ

東海岸州に次の郡長、副郡長が各駐在する。

ラハダト、タワオ、シムボルナ(副)

西海岸州に次の郡長副郡長が各駐在する。

トアラン、アビ、ボーフォート(長、副) シビタン

ノース・ケベル(副)、パパール、(副)

内陸州中に次の郡長、副郡長が各駐在する。

テムブナン、ペンシアンガン、テノム、ケニンガウ(副)

適用法律 條例、印度法、回教徒法、英國民法、衡平法

司法制度 民事事とも同一裁判所により、知事、郡長が裁判官となる。裁判所は高等法院、司法局長裁判所

理事廳裁判所、郡裁判所に分れ、郡裁判所には酋長裁判所を下級審とし、高等法院は總督が自ら裁判長となるのであつた。



一、農業

主要農作物の栽培面積は三七七、二九八エーカー(一九三七年調)で、これを作物別に見ると次の如くである。

ゴム	一一六、六四〇エーカー	米	八四、〇八九
ココ椰子	五二、二八八	サゴ	一三、九四一
煙草	三四〇	ヘムブ	四、一六六

い、ゴム 上記面積中 七〇、八六八エーカーはエステートの面積で、残餘の五五、七七二エーカーは小園經營に依るものである。

過去五箇年に於けるゴム輸出量は次の如くである。

年	數量	價額
一九三三年	一七、四三四、九五三封度	一、五三四、二七八弗
一九三四年	二四、八六八、〇五四	四、八六六、五二三
一九三五年	一九、八六七、〇一九	三、七八三、四七六
一九三六年	一八、三一七、九六四	四、二五〇、五七一
一九三七年	二九、五九六、八二〇	八、七八六、七七一

ろ、ココ椰子 その栽培面積は東海岸州 四三、〇四八 西海岸州 九、二四〇 計 五二、二八八である。過去五箇年のコブラ輸出額は次の如くであつた。

年	輸出數量	價額
一九三三年	一六〇、六七五擔	三四七、六二三弗
一九三四年	一一三、七五八	一一二七、五二一
一九三五年	一三〇、五四九	三九九、四二九
一九三六年	二三六、八七八	五一〇、三八九
一九三七年	一四五、二七八	七六三、二一七

は、米 一九三七年米收穫高二、五七五、四二六ガントンで、内六、六七一、〇〇九ガントンは水稻、五、九〇四、四一七ガントンは陸稻である。

水稻、陸稻の面積を示すと次の如くである。

州	水稻	陸稻	計
東海岸州	七六一エーカー	二〇、〇三六	二〇、七九七
西海岸州	四四、〇九五	一九、一九七	六三、二九二
計	四四、八五六	三九、二三三	八四、〇八九

に、煙草 ダーベル煙草栽培會社經營で次の面積が栽培されてゐた。

年	面積	耕作地	收穫量
一九三五年	七五エーカー	一	五九、六〇〇封度
一九三六年	二六六	一〇〇	二五〇、一五六
二農業			六三



ほ、麻

英國ビー・エム・エツチ會社がプランティアン河流域に六五〇エーカーの分譲地に栽培をしてゐるが、本品の栽培事業は、主としてタワオに於ける日本人の手によつて經營されてゐる。

輸出高	一九三六年	四、二六〇擔
	一九三七年	八、七四五擔

三、林業

森林は常緑潤葉樹を主たるものとし、龍腦香料、荳科、樟科に屬するものが目的材となつてゐて、針葉樹もあるが、其の数は少ない。まだ完全な測量は行はれてゐないが、海岸より二〇哩以内の地域で處女林が二百萬エーカー以上であると推定されてゐる。

イ、主要林産物

用途別による木材

鹽水に耐え得るもの、ピリアン、アングリテイン、バンカワン、ヅングン、ブラパット、テナガ  
 船舶、ボート用、ヅングン、ブナガ、アングリテイン、テナガ、クルイン  
 土地に接觸して可なるもの、ピリアン、ミラバウ、ヅングン、スランガンバツ、ラサク  
 橋梁、埠頭用、ヅングン、ミラバウ、ブラパット、カポール、スランガンバツ

橋桁用 ミラバウ、ブラパット、ピリアン、アングリテイン

床板用 スランガンバツ、クルイン、ミラバウ、ブラパット、オバストール

壁板用 スラヤ(ボルネオ杉)

戸窓用 ミラバウ、ラサク、ブラパット、ピントタン、ラング、スランガンカチャ

家具用 マンガリス、レンガス

ロ、主たる木材の材質

スラヤ(ボルネオ杉) 軟かく、軽く、赤斑があり、木理麗しく、こなし易いので大工に喜ばれる。

クルイン 相當堅い木質で、暗赤色、スラヤに次いで豊富である。

ウラツトマタ 淡灰色、桃色、耐久性に乏しいのが缺點であるがクルインに次いで豊富である。

樟 木理は眞直、樟腦の香があり、この材は相當量があるので、將來は有望である。

スランガンカチャ 大木となつてゐる、淡黄色で、軟かく、木理は眞直である。

オバストール 暗赤色で木理細かく、又堅くて重い。マホガニーの代用品となり得るが産出量は少い。

ピリアン(鐵木) 暗褐色で重く堅い、又耐久性が極めて強い。供給は豊富である。

スランガンバツ 堅く重い、黒く光り、耐久性が強い。

ミラバウ 木質堅く重い、木理は粗雑で硫黄色、耐久性(蟲害)で鹽水には弱い。

アングリテイン 堅く重く、暗灰色で木理は細い。耐久力はピリアン(鐵木)に次ぐ。

マンガリス 重く堅い、木理粗雑で暗赤色をなし、耐久性に乏しい。供給は豊富である。



ハ、木材以外の林産物

籐 森林法によつて未生熟のものを採集すること未乾燥籐の輸出は禁ぜられてゐた。商業價值あるもの八種  
カタバチヤ 野生ゴムであるが、眞のゴムと異なる點は湯に入れば軟化し弾力を生ずるが、冷せば再び固ま  
る、熱及び電氣の不良導體である。

ダマル 或る種の樹木の樹液、樹脂の固まつたもので、松火用、ワニス等の乾燥油の原料として用ひられる。  
樟腦 藥用、防腐劑製産は割合に少い。

香木 沈香、甘美な薫香を發する。

ジエルトン 或る種の樹木の樹液から採つたものでチウインガムの製造に用ひられる。

バルサ樹 コルクよりも輕いので飛行機製作、ラジオの擴聲機等に用ひられ、需要が多い。

竹 家屋、橋梁用。

燕巢 支那人の珍重するもので料理に用ひられる。

蜜蠟 野蜂の巢を採り蜜を取つて乾燥したものである。

カツチ 單寧原料でマンダローブ樹皮から得るのである。  
今一九三三―三七年の輸出統計を示すと次の通りである。

年	數量	價額
一九三三年	四、五七一、七一三立方呎	二、二七一、一〇三弗
一九三四年	四、八六一、五八一	二、二五六、六八一

年	數量	價額
一九三五年	四、七七一、六七六	二、二一七、六九三
一九三六年	五、七九四、六八五	二、五九三、四八〇
一九三七年	六、二七二、〇一一	二、八四二、一八九

年	數量	價額
一九三三年	一、五〇九噸	一八〇、四六七弗
一九三四年	一、六二六	一九五、一五六
一九三五年	一、六〇七	一九二、六三三
一九三六年	一、九〇六	二三五、二一一
一九三七年	二、九四六	三一九、四七五

燕巢 生産高―白燕巢 三四、七七擔……一一、〇四六弗

黒燕巢 四三、一五擔……三〇、〇一九弗

その生産地はキナバタンガン地方、ゴマントン洞、及びラハダト地方のマダイ洞を主とする。

林業收入、一九三七年度中のは二一八、八三五弗であつた。

四、漁業

乾鹽魚輸出 一九三三―三七年の輸出統計は次の如くであつた。

四 漁業



第九節 北ボルネオ(舊英領北ボルネオ)

六八

年	數量	價額
一九三三年	一三、二九三擔	二〇七、七五三弗
一九三四年	一八、五二一	二一六、六六一
一九三五年	二五、七三一	三四一、四五二
一九三六年	二五、二九四	三八〇、三二六
一九三七年	三六、四八八	四三八、八一七

ボルネオ水産株式會社はタワオに本據を置き、シアミル島に於て活動を繼續してゐる。罐詰及鯨節輸出量は次の如くである。

年	數量	價額
一九三六年	九、五三九擔	二八四、九一五弗
一九三七年	九、七七五	二九三、二〇六
小粒眞珠	一九三五年一一一タヒル	一九三六年一一四タヒル
	一九三七年	一九三七年一九〇タヒル

大して好望のものではない様である。

ボルネオ眞珠會社ではスムボルナ附近のパカラランガンで養殖を試みつゝあつた。

五、鑛業

北ボルネオの鑛物資源として擧げられてゐるものは、金、石炭、石油であるが、このうちで現在稼行し得るものは金のみに過ぎない。この金のみは東海岸に砂金として存してゐる。石炭は曾つて採掘を見たのであるが、採算不利で中止した。石油は好望と信ぜられて地理的調査を繼續してゐる。

曾つて調査隊の主任として北ボルネオの資源調査に當つたラインハート博士其他は次の如く云つてゐる。「北ボルネオほどに大きな困難を探索者が嘗めた國は絶無であらう。平方碼毎に深いジャングルに蔽はれ、鑛床の露頭は水流に沿ふてのみ發見せられる仕末で、地質の構成は容易に判明し得ない。しかも貴重なる鑛床は屢々地質學者の期待してゐない場所に存する。然し乍ら人間が「自然」の術策によつて、いつまでも挫折されるものではない。北ボルネオの秘められた財寶も總ては全然明るみに出されることは確である」と。

六、貿易

貿易額	一九三八年	輸 入	輸 出	差引出超
第一期	一、六五七、八五九弗	三、〇〇六、二四一	一、三四八、三八二	輸出超過
第二期	一、五七一、七三九	二、一六二、六四七	五九〇、九〇八	
第三期	一、四八七、三五二	二、〇五二、七五〇	五六五、三九九	
第四期	一、四九四、九二二	二、三〇三、四九四	八〇八、五七二	
六 貿 易		六、二二一、八七一弗	九、五二五、一三二	三、三三三、二六一

六九



第九節 北ボルネオ(舊英領北ボルネオ)

一九三八年計	六、二一、八七一	九、五二五、一三二	三、三三、二六一
一九三七年計	六、三五七、〇四七	一四、二九五、三三二	七、九三八、二七五

い、主要轉入品

順位	一九三六年	一九三七年	一九三八年	品目	輸入價額(一九三八年)
1	1	1	1	米、麥、穀類	一、三一四、一三一弗
2	3	3	2	食料品	七〇一、七三八
3	2	2	3	織物及衣類	六六七、八三一
4	4	4	4	煙草	四五五、〇〇三
5	5	5	5	鐵器金屬類	四五二、九一二
6	6	6	6	雜貨類	三五二、七七五

ろ、主要輸出品

順位	一九三六年	一九三七年	一九三八年	品目	輸出價額
1	1	1	1	ゴム	四、七三七、七〇一弗
2	2	2	2	木材	二、一七七、一七八
3	3	4	3	乾魚及鹽類	五〇七、一四六
4	4	3	4	煙草	四五九、一九六
5	5	5	5	コブラ	四〇六、八三四

は、ゴムの輸出相手國別比率

相手國	一九三三年	一九三四年	一九三五年	一九三六年	一九三七年
シンガポール	五七・三四	六〇・〇〇	五八・三五	四六・三一	四一・一三
英國	一五・五六	二二・九九	二四・五五	二四・六六	一六・三八
米國及比島	五・五六	三・二四	一・四四	一〇・九一	一〇・四九
歐洲	八・六七	四・〇五	五・四八	四・〇九	一九・一五
日本	一二・七二	九・五四	一〇・〇九	一一・四〇	一一・六一
其他	〇・一五	〇・一八	〇・〇九	二・六三	〇・二四
計	一〇〇・〇〇	一〇〇・〇〇	一〇〇・〇〇	一〇〇・〇〇	一〇〇・〇〇

に、木材の輸出相手國別比率

相手國	一九三三年	一九三四年	一九三五年	一九三六年	一九三七年
香港	四四・三六	二二・七〇	二九・一三	一七・四四	一九・七八
日本	三二・一八	三六・一九	四九・〇〇	六〇・二六	四九・七二
濠洲	一・八三	三・四五	三・六八	二・九四	四・二七
英國	四六・一〇	一一・四八	九・三二	一〇・九二	一四・四七
比律賓	〇・一四	〇・一一	〇・〇九	〇・二七	〇・一五
六貿易					七一



サラワタ	—	〇・四七	〇・一五	〇・一一	〇・〇一
マライ	—	〇・二九	〇・二二	〇・二九	〇・三四
東南西ボルネオ	—	〇・六三	〇・三七	〇・〇四	—
支那	一四・三六	一六・九六	六・一九	六・二九	九・〇八
歐洲	〇・五〇	七・二三	一・一六	〇・一六	〇・五七
アフリカ	—	〇・四九	〇・六九	一・五三	一・六一
其他	〇・五三	—	—	—	—
計	一〇〇・〇〇	一〇〇・〇〇	一〇〇・〇〇	一〇〇・〇〇	一〇〇・〇〇

コブラ これは主として舊シンガポール向に輸出されてゐたのであるが、タワオから日本へ直接に仕向けてゐたものも相當にあつた。

乾鹽魚 大部分は香港向であつたが、シアミル島に根據地を有するボルネオ水産株式會社の産品は日本向に直送され、なほ餘力を以つて歐洲、カナダ、米國へも市場を開拓してゐた。

ほ、關稅收入	第一期	三六一、七七二弗	第三期	三三六、五七八
	第二期	三四一、七四五	第四期	三三〇、〇九四
	計	一、三七〇、一八九		

英特惠許容收入額は二〇七、一八二弗で、その内で煙草に對する五四、八六三弗及織物衣類に對する六〇、一二

九弗を最高とする。

へ、港別木材輸出高

サンダカン	三、六〇七、一〇七立方呎	シビタン	七、九〇三
タワオ	五六九、六九二	ウエストン	三、七二九
シムボルナ	五〇八、五八〇	計	四、六九七、〇二一

七、交通

(一) 水運

イ 河川運輸 河川の多くは比較的小流で河口近くを除いては僅に原住民の小舟を通ずるだけである。然しキナパタンガン河は川筋の屈折が甚しいけれども、河口から一二〇哩の上流までも吃水六呎の汽艇で遡河し得る。尙ほ、これより五〇哩の上流タンカラツプまでは、モーターボートで航行が出来る。

ロ 海上運輸 陸上交通は不便が多いが、海上交通は割合に開けてゐた。商船入港噸數とその國籍別比率を一九三六年、一九三七年について見ると次の如くである。

英	一九三六年%	一九三七年%
日本	四〇・六七	三九・六八
支那	一一・六九	三三・二九
其他	一八・九七	八・九三
七交通		七三



第九節 北ボルネオ(舊英領北ボルネオ)

七四

オランダ	六〇三	七八〇
北ボルネオ	四二二	三九九
諸威	三二一	二七〇
ブルネイ	一六〇	一九九
サラワク	一三二	〇四四
丁抹	〇六〇	—
米國	〇五九	〇三二
濠洲	〇二〇	—
伊太利	—	一・二八
フランス	—	〇六八
計	一〇〇〇〇	一〇〇〇〇
入國者數 (一九三八年)		
入國	一七、〇九五	八、六二六
入國超過	八、四六九	
就航汽船		

サバ一汽船會社 一隻を以つて東海岸諸港と一週一回の定期航海をなし、月一回サンダカンより南部比律賓に差向けてゐた。

海峡汽船會社(S・S) 三隻を以つて毎週一回北ボルネオ各港、ラブアン、ミリ、クチン及舊シンガポール間を航海し、四月及び十二月はメツカ巡禮者を送つてゐた。

印度支那汽船會社 殆んど毎月一回木材及び雜貨積送の爲サンダカン、香港間に就航してゐた。

カービーエム社 二週一回、タワオ、舊蘭印間を航行してゐた。

南洋海運會社 ジャワ、タワオ、日本間を二十四航海してゐた。

比律賓カツチ會社 時々マングローブ樹皮積取の爲め、タワオに入港してゐた。

バインズ・フィルプ商會汽船 年四回位、香港、濠洲間航行中サンダカンに入港してゐた。

南阿鐵道及港灣局 所屬汽船を年四、五回サンダカンに入港させ木材積取を爲さしめてゐた。

ウイリアムスン商會 所有船一隻を年五回位サンダカン港に入港させてゐた。

其他 一九三七年中に寄港した船舶は上記の定期的のもの外、英國船二、支那船三、日本船九、諾威船

三、和蘭船六、伊太利船一、サラワク、ブルネイの小型船數隻であつた。

一體ボルネオは、その海岸が極めて淺くしかも泥海なので、船運が悪く、さりとて棧橋を作り港をつくるといふことも等閑にされてゐたので、荷役等に出費が多く従つて運賃などは非常に高くつゐてゐたのである。

(二) 陸 運

イ、道路 北ボルネオの道路は他の英領植民地に比べて非常に劣つてゐるが、最近は自動車の驚くべき發達によつて、これが道路の開鑿を非常に促進した。道路は大別して、砂利敷道路、原始的道路、馬路となり、馬路は内陸方面に入る唯一の交通道で、馬背によつて行くのである。



ロ、鐵道 アビからゼニワオンまで通じてゐる丈で、他にポーフオート、ウエストンがあるに過ぎない。

(三) 通信

イ、郵便 郵便局はアビ、ポーフオート、テノム、クダツ、サンダカン、ラハダト、タワオの七都市にあつた。また、この郵便局の設置のない所でも政府の官吏の駐在する所では便宜に郵便事務を取扱つてゐた。

ロ、電信 電信はサンダカン、アビ、クダツ、タワオの各電信局で無電で送受信がせられてゐる(火花式発信と短波無電)。もとは電信線による通信であつたが、通信線が絶えず野獸の爲、又は洪水の爲阻害されてゐたものである。

ハ、電話 電話交換局は十二局を數へるが主要なのはサンダカン及アビのみである。サンダカンでは自動式でやつてゐる。中部地方のものは總てが長距離線によつてアビ局と連絡することになつてゐた。

八、労働事情

一九三七年末の二十人以上の労働者雇傭主は六二であつたが、一九三三―三七年の労働者数は次の如くである。

年	支那人	ジャワ人	原住民	計
一九三三年	三、三六八	一、九八二	三、三四五	八、六九五
一九三四年	四、二五一	二、五七四	五、三四〇	一二、一六五
一九三五年	三、四四五	二、二〇八	三、八九〇	九、五四三
一九三六年	四、九五〇	二、一六九	六、一八八	一三、三〇七

一九三六年

七、三〇二

二、四九〇

八、六八八

一八、四八〇

(男と女との割合は男七、に對し女一である)

イ、労働者健康狀況

普通の状態といふてよく、危惧すべき傳染病等は稀有である。罹病者の大半はマラリヤ、脚氣患者である。一九三三―三七年の労働者罹病率、及び其の死亡率は次の如くである。

年	罹病率	罹病者の死亡率(千人に付)
一九三三年	一・六五%	一四・二〇
一九三四年	一・六一	一四・二〇
一九三五年	一・四一	一四・八〇
一九三六年	三・二五	一〇・九四
一九三七年	一・四九	一八・九二

ロ、移民 支那農民の來住を奨勵して、フリーパス制度を執つてゐたが、支那人土地所有者で、故郷より移民を呼ぶのにフリーパスを許可されたもの、一九三七年中パス發行數五六二枚、渡來者四九三人であつた。この外に自費渡來者は一九三七年中七、九二二人であつた。

九、主要都市

サンダカン 北ボルネオの最大都市で、東海岸サンダカン灣の入口に位し、人口一三、八〇〇、其の内の一、〇〇〇は支那人である。市街は一八七九年に灰燼に歸したものを再興したもので、港は東洋諸港との貿易が殷盛



で、棧橋は政府が相當巨額の資を投じて建設したものであり。船舶への給水設備も備つてゐる。

北ボルネオの首都はモンスーンの關係から、或はアビとなりサンダカンとなりしたのであるが、一九三六年、此のサンダカンを北ボルネオの首府として永久に存すべきことを定めた。

アビ(ゼツセルトン) 西海岸に於ける、鐵道の北部終點として西部の主要港としてガヤ灣内に位置してゐる。前面にアビ島竝にサバンガル島があつて、之れ等が格外な風避けとなつて灣内は波が静かである。人口は約四千六百、郊外及び郡内を數へて約一萬八千である、本市街は西海岸地方に於けるゴム事業の發展につれて、その重要性を増し來つたのである。政府機關、兵營が備はつてゐた。市街地には公共用建物、商店、支那人店舗が海岸近くに列んで居り、後方の丘陵地は歐人の住宅地となつてゐた。

ババル アビより南下して汽車一時間哩程の處にある、ババル河の河口から二哩の上流にある小都市で、支那人が多く居住し、市場もあり、郡役所の所在地として臨海休息所のあるブノイに近い所として知られてゐた。ポーフオート アビより南方、鐵路五十六哩の所にあり、ゴム、サゴ椰子産業の中心點である、安息所、俱樂部、ゴルフリンクなどが整つてゐて、優れた保養地となつてゐた。郡役所の所在地である。パダス河が時々氾濫するので家屋の床は四五呎も高く造つてゐる。

テノム ポーフオートからパダス河に沿ふて廻り、汽車哩程二時間の所にある。小綺麗な町で、支那人店が多く町の周圍は園藝畑で圍まれ、海拔六〇〇呎、森林美、溪谷美で謳はれてゐる。

クダツ 北ボルネオ最北端のマルツ灣内にあり、良港である南洋航路の汽船の碇泊地で、棧橋の設備も相當に整つており、無線通信所もある。

ラハダト 東部グーベル灣内にあり、前面にサカル島を控へ良港であるが、附近の煙草栽培が衰へてから衰微するに至つた。近時ココ椰子栽培が盛行してゐる。

タワオ 東部カウイ灣の入口にあり、北ボルネオの他の都市に比して著しく速な發展振りを示してゐる。赤道に近いが微風があつて氣候は比較的良好である。農業地として發展して來たので、ゴム、ココ椰子栽培が多い。しかし近隣には無限の森林がつづいてゐるので、將來は木材産業の中心地としてサンダカンを壓するに至るであらうと言はれてゐる。住民の大部分は支那人であるが日本人の移住者も相當に多く、ボルネオ水産株式會社も事務所を同地に置いて活動してゐる。

## 一〇、北ボルネオの現在建設狀況

### (一) 一般

北ボルネオの經濟建設狀況左の如し。

イ、交通 北ボルネオといふよりボルネオ全般の交通は舟運を除いて見るべきものがない。然も海岸線の遠淺に影響され、各河口は淺く巨船の航行は殆んど不能であつた。戦前五、百萬トンの船腹が沿岸航路に就航してゐたが、わが軍當局では一周年の今日既に二百萬トン復活し運航してゐる。次ぎに、道路は極めて少く僅かに都市中心に發達をみるのみで満足な橋梁一つない現狀であるが、アビ、サンダカン間、ブルネイ、ミリ間等の道路改修乃至建設がなされんとしてゐる。其他サンダカン港の重要性が認められ、同港の完備を計畫、既に二萬トン級の船が岸壁に横付け出来るやうになつた。サンダカンこそ將來北ボルネオの中心基地とならうと思はれる。



ロ、農業 刻下の急務である原住民の常食米は、北ボルネオにおいて五十萬石消費されるが、生産はその半分である。當局では自給自足を目指シクチン、アビ、サラワク一帯にかけ米作奨励をなしてゐるが、これに最も必要なのは勞力である。北ボルネオの豊富な果樹のうちパイナップルは味覺において世界一と稱せられ、戦前舊シ  
ンガポールに於いて罐詰にされ、世界各地に輸出されてゐたが、今後は現地において罐詰工場を興シ大いに内地に移出し食膳を賑はすことにならう。その他玉蜀黍、胡椒、サゴ椰子等は米作とともに海岸地帯は不適當であるため、内陸のジャングルを焼拂つて栽培が行はれて來たが、當局では原始林の伐採といふ一石二鳥を狙ひ、これが栽培に力を入れてゐる。ピンツールーにあるチューインガム工場は世界屈指を誇つてゐたが、目下閉鎖してゐる。ゴム界の不振は、要するにフィリッピンの砂糖の如く、東亞共榮圏内に過剩のためであるからその代替農業を決定すべきことを重要であらう。

ハ、地下資源 北ボルネオの重要資源は勿論石油であるが、石油は益々有望であり、現在既に戦前に比肩すべき産出を見てゐる。北ボルネオが有する礦物で將來性を持つものに鐵、石炭、金、ボーキサイト、水銀、アンチモニー、モリブデン、ジュラルミン等あり、特に水銀は世界屈指と稱され月産〇トンを出産する。石炭は南方圏の自給を目指して開發されてゐる。要するにボルネオの礦物資源は未調査のままにあり、今後の開發により益々豊富性が明らかにならう。

ニ、工業 北ボルネオにおける工業としてはカツチ製造があるが、目下ブルネイ、セララン、サンダカン地方に經營され、染料材として將來益々必要度を加へる有望工業である、船舶用材として優良性を認められるラワン材も産出され、今後の發展が注目される。戦前北ボルネオの水産業は林業と共に我が邦人によりタワオ中心に行

はれて來たが、目下その復活途上にある。

(二) 新軍政區劃

ボルネオ軍管轄下の軍政地域は五州二十縣(一州を三縣乃至五縣に分つ)に分たれ、舊英領西部ボルネオの西部州を最大とし、舊英領北ボルネオのサンダカンを首都とする東海岸州、アビ(ゼツセルトン)を首都とする西海岸州に二分し、ブルネイ及び北部サラワクを含むミリ州と、クチンを中心とするサラワク南部のクチン州の五州が之である。州廳はそれ々々ボンテアナ、サンダカン、アビ、ミリ、クチンに置かれる。

(三) 五州長官任命

ボルネオ方面軍最高指揮官前田中將はボルネオ軍政大綱を決定、軍政要員も殆んど到着、人員の整備をみるに至つたので、全管轄下五州の州長官を左の如く發表した。

東海岸州長官	隈 部 種 樹
同	村 上 義 正
西海岸州長官	兒 玉 魯 一
同	德 野 外 次 郎
ミリ州長官	
同	
クチン州長官	

一〇 北ボルネオの現在建設狀況



同 千田 悅 次 郎  
西部州長官へ

なほ各部長、各州縣知事等も同時に發令された。

(四) 北ボルネオの地名改稱

先般の政治決定により舊英領北ボルネオ、ブルネイ及びサラワク各地方一帯を總括して「北ボルネオ」と呼んでゐるが、今度北ボルネオ軍政監部では現地限りで左のごとく地名を用ひることとなつた。即ち管下東海岸州、西海岸州を、夫々「東岸州」、「西岸州」と改稱、又久鎮州、美里州、志布州及び久鎮、美里、志布の各都市は漢字を當て、その他の地名は片假名とすることとし、またラプアン島は前ボルネオ方面陸軍最高指揮官故前田大將の遺跡であるので、これを「前田島」と改稱することになつた。

(五) 海軍、通信兩局設置

ボルネオ軍政監部は去る六月管下を五州十五縣に分ち、州長官以下軍政要員を任命して一應機構を整備したが、其後逐次部長、課長級以下の要員が到着したので、最近にいたり本部と地方とを通ずる軍政體系は著しく整備をみるにいたつた。これと同時に軍政本部に於いても外局として海軍局、通信局を設置、ボルネオの特殊性に對應して建設にさらに一步を進めることになつた。

なほ海軍局の設置はボルネオは殆んど道路らしい道路なく、島内の交通はすべて海又は河川に依らざるを得ない實情にある。従つて船舶海運の問題は總ての建設の先決問題となるので、ここに重點を置かんとするものである。

(六) シブ廳開廳式

ボルネオ山系より發して西流するレジャン河流域の廣漠たるジャングルと平原とは西ボルネオの將來の寶庫として着目されてゐるが、ボルネオ方面軍ではこの地域の開拓に重點を置き、レジャン下流の要衝シブに州廳を置き、千田少將を州長官として八日州廳の開廳式を舉行、前田最高指揮官臨席の下に逞しい開拓の第一歩を踏み出した。この地方は既にゴム園及び米作の中心地としてジャングルの開墾が進められてゐたが、今後軍の遠大なる計畫のもとにシブ州廳が主としてこれが開發に當る方針である。

(七) 舊通貨に代る軍票流通

ボルネオにおける舊金融機關の整理並に再建は正金銀行の手によつて逐次進められつつあるが、すでに昨年七月初めよりサンダカン、クチン、ミリでは正金銀行支店が業務を開始し、八月一日よりはアビ支店も開業、近クシブにも支店開設の運びになつてゐる。これら支店開業と共にマライ人、華僑、印度人等の預金は急速に増加し、新しい金融機關に對する住民の信用を如實に反映してゐる。なほボルネオの舊通貨は等價で併用を認められてゐるが、軍票の信用は斷然高く、預金集中や納税その他を通じて軍票が逐次舊通貨にとつて代る傾向が顯著である。

(八) クチンの彩票好成績

ボルネオ軍政部では建設資金の一部を調達するため、管下五州のうち先づクチン州において九月一日より彩票十萬圓を賣出したが好成績をもつて金額賣切れとなつた。この資金は主としてボルネオに最も缺けてゐる道路の建設に充てられる。

又軍政部では原住民に對する福利施設や基礎的建設の資金の一部を調達するため、彩票を發行する方針を決



定、先づクチン市廳に於て第一回〇萬圓の彩票を發賣しその成績を見た上、管下各州廳に於てもその賣出しを開始することになつてゐる。尙彩票は一枚一圓、一等當籤は二千圓の割増金附である。

(九) 正金支店開設

ボルネオにおける舊金融機關の整理並びに再建は正金銀行の手によつて逐次進められつつあり、即ち昨年七月初よりサンダカン、クチン及びミリでは正金銀行支店が業務を開始し、八月一日よりはアピにも支店を開設、近くシブにも支店設置の運びになつてゐる。これら支店の開業とともにマライ人、華僑、インド人などの預金は急速に増加し、新しい金融機關に對する住民の信頼の深さを反映してゐる。

十月一日より更に正金クチン出張所に南方開發金庫支金庫が業務を開始し、これによつてボルネオ金融機關は新たな建設工作に即應する新態勢を悉く完全に整備するに至つたのである。

(一〇) クチン丸就航近し

北ボルネオサラワク河の下流で自沈した英貨物船レイナ號(二、四〇〇噸)の引揚作業は、ボルネオ軍政監部當局の指導下に去る九月十四日サルヴェーシ日本の眞價を發揮して見事に成功、十月二十五日昭南港に廻航修理中であるが、近く修復の上はクチン丸と改名大東亞海に就航することになつてゐる。

(一一) 乙女部隊到着

新生ボルネオ建設の重要な役割を擔つて、五月二十七日ボルネオに到着した〇〇名の建設戦士の中に百餘名の可憐な大和撫子がゐる。二十歳前後の潑刺たる乙女たちでタイピストとして、事務員として部隊本部や軍政部で働く者六十餘名、ボルネオ各地に建設されるホテル等で働く者五十名、その大部分はやくも北はサンダカンから南はボンテイアナの各職場に就いた。

(一二) ジュート代用樹皮發見

大東亞戰以來インド特産のジュートはわが方のみならず、東亞共榮圏の全域に輸入杜絶をみるにいたつたので、これに代るべき包装材料としてかねて北ボルネオ軍政部では島内の或る種の雜木につき研究してゐたが、この程雜木の樹皮からジュートに劣らぬ包装材の試験的製造に成功し、來年から島内において大々的に製造することになつた。この雜木は島内いたるところ無盡藏に繁茂し、これが包装材への製造方法も頗る簡單で、家内工業として充分採算がとれ、島民工業の發展策にも寄與するわけである。しかもこの包装材の生産によつてボルネオ島産品の移出はさらに積極化し、他方共榮圏相互間の輸送にも使用さるべく期待されてゐる。

(一三) 故前田大將等の現地部隊葬

北ボルネオ、ピンツールー沖合で陣歿した陸軍大將前田利爲侯及び副官白井唯一少佐、及び阿野勝太郎陸軍技師の部隊葬は、ボルネオ、クチン市の偕行社において神式により執行された。

一一、北ボルネオの華僑

北ボルネオにおいて最多數を占める民族はズスン族であり、その數は約九萬八千人、支那人同様の服装をして稲作に従事し、在來民族中最も優れたものであるが、しかも彼等といへども社會的實力においては到底華僑には及ばないのである。

支那人即ち華僑はこの地の住民と最も早く交渉を持つた民族であり、遠く七世紀の昔から交易を開始してゐるが、一九三一年その數は四萬七千八百餘に達し、北ボルネオ總人口の約一割八分を占め、その半數以上は原料生



産に従事してゐる。

原料生産(農業等)に従事する華僑は廣東省出身者が多く、タワオ地方の華僑には香港からサンダカンを経て、日産、三菱の農園、ボルネオ水産等の邦人企業に雇傭されてゐるものも多く、タワオ地方では人口一萬五百餘のうち六割が華僑である。

ラハダト地方では華僑四千人、この地方總人口の二割五分に當り、ラハダト市で商業に従ひ、農園に傭はれ、個人椰子園の經營などに當つてゐる。

サンダカン地方では華僑約一萬五千、この地方總人口の六割四分に當り、サンダカンの商店街に店舗を張り、ゴム園を經營し、或は農園に傭はれたりしてゐる。

アビ地方では六千七百餘の華僑が居り、この地方總人口の三割五分を占め、アビ市では人口の五割八分が華僑である。

かくて北ボルネオの華僑は廣東出身のものは主として農業に、福建出身のものは主として商人として活躍し、壓倒的の優位を占め、栽培業者に貸付をなす金融業者とし、生産物の買占めを爲し得る地位にあることを利用したりして、消費者と生産者との間に介在して二重の搾取を爲してゐる。

ボルネオ華僑過去を清算 軍當局は管轄下二十萬の華僑に對し新軍政の指導方針を徹底せしめると共に抗日不良分子を一掃してゐるが、七月二十七日北はサンダカンより南はクチンにいたる各地の華僑代表三十名が派遣軍本部に出頭、從來の授養援英の過去を清算して皇軍に對する絶對の信頼と忠誠とを誓ひ、國防献金として三百萬圓を献納したき旨を申出で來つた。

## 第一〇節 北ボルネオ 其二(サラワク)

### 一、位置、面積

サラワクはボルネオの北西岸にあつて、長さが四五〇哩、幅四〇―一二〇哩といふ地帯で、緯度から云ふと、北緯一度から五度、東經百九度四十分から百十六度に及び、面積は約五萬平方哩(一二九、四九五平方哩)、しかも海岸線は單調で四百哩に過ぎない。東、西、南の三面は舊蘭印ボルネオに境し、北東方は北ボルネオに接し、北西方は支那海に面してゐる。人口約四十四萬で馬來人、ライドダイヤ、シーダイヤ、メラナウ、支那人、少數の歐洲人で構成されてゐる。ここは軍政下に入つて北ボルネオになつた。

### 二、建國小史

サラワクに關しては古來から傳説も多いが、極めて不明確なのでこれを記する價値に乏しい。最初の侵入者は支那人であつた。次では爪哇のマジャパイト佛敎國が之を支配し、馬來人の渡來が多くなり、其後ブルネイの屬國となつてゐたが、それは名のみで海賊の巢窟となり、弱肉強食をそのまゝに擾亂に次ぐ擾亂で、國內不安はブルネイ國主をして、奔命に疲れさせてゐた。この紛亂に困り果てゐた一八三八年頃に突如としてやつて來て、國王オマル・アリを助勢して海賊の反亂を平定したが、印度で生れた英人ジュームス・ブルークであつた。ブルークは其後サラワクの住民に接することになつたのであるが、國人の國王アリを惡むことの甚だしいのを知つ



て、國人の爲にアリを斥けることを決意し、推されて將軍となり、之を打ち退けてラジャの尊稱を得てサラワクの總督となつて仕舞つた。これは一八四一年のことで、ここにサラワク王國の基礎が建設されるに至つたのである。

當時のサラワクは僅少な地域であつたのであるが、これを圍む諸地方が群雄割據で常に争亂を事としてゐたので、ブルークの勢力が、いつの間にか、四周を壓して勢力圏を擴げるようになり、一八四六年には、ブルネイ國と離れて、眞の獨立國となり、ジェームス・ブルークはサラワク第一代の王となつた。

一八五四年、アメリカ合衆國は、サラワクの獨立國たることを承認し、一八六四年に至つて英國も、サラワクを一獨立國として承認した。次いで一八八八年英國はサラワク國王と條約を結び、サラワク國は英國の保護領下となり、英國政府はサラワクの内政に干渉を行はず王位繼承に關して生ずる問題を決定し、外國關係の調整及び領内に領事官を設置せしめる權利を有し、英國臣民はサラワク國で最惠國待遇を享受し、領土は英本國の許諾無くして一部分と雖も讓渡することを得ないと定めたのである。

### 三、農 業

イ、ゴム 農作物中、價額に於いて首位を占めるものはゴムで、これは最近二十餘年間の發達であるが、大部分は小規模の原住民經營のもので、邦人經營日沙商會の植付は三千數百エーカーで最大なるものとされてゐた。かような小經營であるから製品の品質は劣等視され、市場では下級品とされ、中には再製材料として使用されてゐたのである。

ロ、胡椒 ブルネイ一帯に亘り中世紀の時代から原住民、支那人等によつて栽培せられて居り、一時衰微したがサラワク上流地方の金採掘が不振になつてからは支那人が本格的に栽培に従ふようになり、頓に産額を増すうになつた。胡椒は乾燥した傾斜地に適し、開墾後植付、施肥、除草に至る迄は相當に集約的な勞働を必要とするが、其後は左まで人手を要せず、成長後は一支那人で十エーカーを受持ち得るとされる。植付後二年半内外から採集に入り、十年―十二年の收穫を續け得る。胡椒には白黒兩種があり、白色のものは黒色のものよりも高價である。それは白色のものが充分に成熟した果實の種子からのみ採るからである。

産地はクチン四周の西部地方が主であり、經營者は殆んど支那人で小園經營でやつてゐる。胡椒は地味肥沃なることを要するが病菌に耐える力が強く、農園の敵、野豚の害もないので、採算有利なものとしてされてゐる。

ハ、サゴ椰子 雨量夥多な土地に適すと云はれるので、サラワクには最も適した作物で爲に、古來からサゴ椰子の國と通稱されてゐたのである。生産地は中北部海岸地帯で、之が栽培は主としてマラナウ人であるが製粉、販賣は悉く支那人である。サゴは栽培が粗笨で野豚の害さへ免れれば植付後何等の手數を要しない。十年―二十年成長のもので、その幹から二石―二石五斗の澱粉を得るのである。

ニ、ココ椰子 よく成育に適するのであるが、大規模には經營されてゐない。推定植付面積は約二一、〇〇〇エーカーで、支那人が七九%、マライ人一六%、ブギス人三五%、歐洲人二五%の割合である。

ホ、米 サラワクは其の住民の大部分が米を常食とするにも拘らず、米の輸入國である。従來ゴムを始め、胡椒、サゴ等が有望な爲、其の栽培は殆んど顧みられなかつたが、米の輸入量の甚大なのに驚いた政府は、栽培改良に努力するようになつたが、未だ充分な成績は擧げられてゐなかつた。



へ、甘藷 一八八四年頃、英人會社で試作されたが土地の選定が悪かつた爲失敗に歸した。  
 ト、珈琲 茶、高原的土地が少いから望みは薄いが、東北部のブルネイ國境附近は高原であるから試作すべきである。

チ、纖維植物 ラミー麻は東北部ラワス河流域で試作され、その成績は可良と報告されたのであつたが、其の後、中絶の姿となつてゐる。シサル麻、マニラ麻についても何等の報告がないようである。

リ、果樹 鳳梨はクチン地方で非常に成績がよく舊シンガポールにも輸出されて罐詰の材料とせられてゐた。又、主要農産物の輸出額、主要農産物の輸出品價額は次の如くである。

ゴ	ム	一九三三年	一九三四年	一九三五年	一九三六年	一九三七年
サゴ椰子	五五、四九六	七〇、四七三	七六、九八五	二五、八六九	一七、三六六	一七、九六〇
ジェルトンガタ	八七、一六三	五五、四七三	四七、九八五	四七、〇三三	六六、四九三	六三、〇九九
胡椒	一一、六二六	三〇、九六四	六三、七七一	五四、四二〇	六三、〇九九	三三、四八八
コブラ	九〇、四九五	六七、四三八	一四、〇四四	三六、〇四四	三三、四八八	

ジェルトンガタはジャングル内の或る樹種の樹液で塗料、チューニングガム及び絶縁材料に使用される。

#### 四、林業

イ、海濱森林 マングローブ林で廣汎な區域に互り、レジャン河の三角洲、サラワク河三角洲、ブルネイ灣内

のサラワク領等に存し、姪木科のものが多し。薪材・木炭として、又カツチ採取原材として頗る有望であるが、現在の輸出货量は極めて少い。

ロ、内陸森林 龍腦香科、荳科、樟科のものが大部分を占め、極めて好望のものである。搬出にあたり、水運の便はありながら大型船舶を通航せしめ難いところに難點がある。

カツチ	三五、七五四	四四、七六〇	四九、五三二	五〇、六一三	三五、五八二
ダマール	六〇、三三〇	五五、〇三九	一八、六六六	一九、七四三	八六、八一三
籐	三〇、七五四	六三、八七四	三六、三三五	三〇、〇一一	三六、三三九
木材	一一、三三九	四七、六七三	二八、四四四	七〇、四六一	二七、五三五

#### 五、鑛業

本サラワク國は山岳の頂上までジャングルを以つて覆はれ、奥地には危険なダイヤ族があり、交通の便、極めて乏しい爲、未だに原始時代そのままの状態を續けてゐる。これがため試掘が大々的に試みられ乍ら、踏査が落河川の沿岸附近にのみ局限されてゐる理由である。旅行者の手記中に錫鑛のあること、良質の鐵鑛がカヤン族部にあること、金の證跡が諸川に發見されたなどあるにかゝはらず、事實は鑛業資源としては石油のみを挙げられ他は未開發の状態に在るのである。

石油 現在サラワクの産業中傑出した富源で、ミリ油田の名は世に著聞してゐる。東洋に於ては舊蘭印に次ぐ石油の生産が、皇國の生産の約三倍が、この僻陬の一地方から産出されてゐたのである。



採掘獨占をなしてゐたサラワク油田株式會社の一九三三—三七年の輸出高を示すと次の如くである。

輸出

一九三三年	五、五六五、三八八弗
一九三四年	六、二六二、四八二
一九三五年	六、七二七、四九四
一九三六年	六、九七一、三三四
一九三七年	八、五八二、四八九

石油抽出品種別

品名	一九三三年		一九三四年		一九三五年	
	數量	價額	數量	價額	數量	價額
ベンジン	七、九〇噸	一、七四九、六一弗	九、七〇噸	一、九五二、四九弗	七、二五噸	一、五八五、六一弗
原油	一、八六四	八、九三六	一、四三九	一〇、二一七	—	—
燈油	三、四〇五	六、四三六	一、三六三	一、五七、一八〇	四〇、三五五	六、四三六
燃料油	三、四〇五	一、六三三、五五	四、三六〇	三、三三六、九三	四九、四九	三、七六、三三四
ソーラー油	八、一三四	五、三、九三	九、三三七	七、九六二	六、三二八	七、四七九

六、貿易

(一) 過去五十年に於ける趨勢

輸入額	輸出額	差引輸出超過	比率超過
一九三八年 一、一六一千弗	一九三八年 一、四三二千弗	一九三八年 二七〇千弗	(三三・二%)

主要港別貿易

年	輸入	輸出	總額	比率
一九三八年	二、四七一	三、二二一	七五〇	(三〇・三%)
一九〇八年	三、九三四	五、二六一	一、三二七	(三三・七%)
一九一八年	七、一八〇	八、九六六	一、七八六	(二四・八%)
一九二八年	二一、三九七	五四、五二七	三三、一三〇	(一五四・八%)
一九三八年	二二、三七一	二六、一三七	三、七六六	(一六・八%)

主要港別貿易 (續)

品名	輸入	輸出	總額	比率
ミ	一〇、五三三	一三、四二二	二三、九五六	(四九・三%)
ク	七、六二二	七、一一五	一四、七三八	(三〇・三%)
シ	二、四三五	二、六一五	五、〇五〇	(一〇・四%)
ブ	一、七八〇	二、九八二	四、七六二	(一〇・〇%)
計	二二、三七一	二六、一三五	四八、五〇六	(一〇〇・〇%)

イ、主要商品別輸入高

商品別	數量	價格
原油	六九二千噸	五、六五三千弗
鐵、鋼及同製品	—	二、五四二
米	五四九千ピクル	二、二六九

六、貿易



第一〇節 北ボルネオ(サラワク)  
口、米輸入高

九四

年	數量	價額
一九三四年	四四二千ピクル	一、三二四千弗
一九三五年	五五一	二、〇五四
一九三六年	六二八	二、二六九
一九三七年	五六六	二、四一四
一九三八年	五四九	二、二六九

イ、主要商品別輸出  
(四) 輸出

品名	數量	價額
ゴム	三〇二千ピクル	七、九六八千弗
燃油	六九八千噸	六、四四八
ベンチン	九四千噸	三、一〇五
ケロシン	六二千噸	一、四三五
金	一八千オンス	一、一一三
鐵器	—	九五〇
活動寫真フィルム	—	七九三

品名	數量	價額
ジエルトン	三三千ピクル	七三九
胡椒	五〇千ピクル	六三三
サゴ	二五六千ピクル	五七〇
機械	—	五四五
カツチ	四六千ピクル	四三六

ロ、産物別輸出額

品名	數量	價額
鑛産物	一二、四八二千弗	(五三・六%)
農産物及同製品	九、三四七	(四〇・二%)
林産物	一、二九八	(五・五%)
海産物	一一六	(〇・七%)
計	二三、二四四	(一〇〇・〇%)

ハ、ゴム輸出高

年	數量	價額
一九三四年	二八九千ピクル	五四〇千弗
一九三五年	三二五	七二七
一九三六年	三八〇	九七二
一九三七年	三八八	一、一七〇
一九三八年	二五六	五七〇
六貿易	—	九五



## 七、交通

### (一) 陸 運

道路 サラワクには未だ幹線道路とはなく、全土に跨る大水路網により、物資の輸送、旅客の運送が行はれてゐる。クチンとシブ、シマングアン間を連結する道路の建設が進みつつある。

### (二) 海 運

サラワクに於ける貿易港の主なるものはクチン、シブ、ミリで、當國貿易の大部分は右三港で行はれてゐた。この中、クチンは排水量二千噸迄の船舶を横付けにする埠頭を持つてゐる。この外にはクチンを中心として内地河川、又はシブ、ミリ、東北方のラワス、リムバンにも小汽船による沿岸航路があつた。

航路 クチン⇨舊シンガポール間、毎月五日サラワク汽船會社、及び毎週一回海峽汽船會社船舶が就航してゐた。

シブ⇨レジャン⇨舊シンガポール間毎週サラワク汽船會社船舶の就航及び不定期就航があつた。

ミリ⇨舊シンガポール間には、海峽汽船會社船舶による各週航路があつた。

クチン⇨シブ⇨間、海峽汽船會社が週一回航路を經營してゐた。

クチン、ミリ、バラム間の沿岸航路、サラワク汽船會社が就航してゐた。

リムバン、ラワス間(ラプアン經由)海峽汽船會社船舶の就航を見てゐた。

## 八、通信

イ、郵便局 國內に三十二箇所あり、郵便物は沿岸汽船及び小艇によつて運搬せられてゐる。又郵便局の設けのない所でも郡長の駐在した所では郵便の便が計られてゐた。

ロ、無線電信 設備は、クチン、クチン支局、ルンヅ、サドン、シマングアン、サラトク、シブ、スララン、ピナタン、カピト、ムカー、マツ、ピンツール、ベラン、ギヤン、タタオ、ミリ、リムバン、ラワス、レジャン、カノウキトにあり、これらは何れも國內の電信に限られて通信されてゐた。

## 九、主要都市

クチン サラワク王國の首府で、サラワクの西端、サラワク河を遡る二十哩の地にある。附近物産の集散地でサラワク唯一の良港である。政廳初め各官衙の所在地で人口約二萬五千、河口に並行して數條の道路があり、政廳は市の中心に位置し、國王の宮殿は小丘上にあり、是に隣接して兵營及び砲臺があつた。市内の商業は支那人の掌握する所で、家屋の構造、外觀は悉く支那街の觀を呈してゐる。

シブ レジャン河を遡る約六十哩にある河中の小島で、支那人、馬來人を合せ人口約一萬である。支那人特に福建系の勢力が強く、爲に「新福州」とも稱せられてゐる。ジャングル地帯から原住民が採集し來る各種物産は支那人によつて買集められ、ここから舊シンガポールへ送出されてゐた。

ミリ ブルネイ領に近く、市街を含む附近一帯に互る油田開發と共に近年目覺しい發展を續け、十數年前まで



は一漁村であつたのが、現在では人口約七千といはれ、サラワク第二の都會となつた。サラワクの總輸出額の約三割に上る石油は、當地に産出して、當港から輸出せらるゝのであるが、港としては遠浅で、浪荒く、僅々百噸前後の小汽船で三漕の沖が、りり荷役をせねばならぬ有様であつた。それで、海底輸送管を敷設して沖掛りの巨船に送油を行つてゐた。

**ピンツールー** 中部海岸ピンツールー河口より稍上流に位置し一帯に互りサゴ椰子の栽培が旺んである。

**ムカー** 中部海岸ムカー河の河口より上流に遡つた所にあり、サゴ椰子の栽培が盛んである。

**クロードタウン** バラム河の上流約六十哩に位置し、流域の物資を集散する小邑で、同地よりはブルネイ國を斜斷して東北部に通ずる道路があり、將來に發展性のある所である。

**リムバン** リムバン河口より十哩を遡つた所にある小邑で、北ボルネオとの交通の衝に當つてゐる。

**シマンガン** バタン・ルパー河の上流に在る小邑である。

## 一〇、サラワクの回復状況

クチンを中心としたサラワクに於ける軍政當局の諸施策は次の如くである。

**1 食糧増産対策** 米其他の主要食糧について海外に強く依存してゐるサラワクにとつて食糧の確保は最も重大である。

軍政部では占領後の難民救済と共に食糧増産に努力してゐるが、その方法としては先づ難民に對し、一人五ドル(二箇月間配給定量の米及び鹽を購入手得る金額)をマライ人村長や支那人群長を通じて與へ、これを

受領する者は必らず食糧耕作に従事することとし、また空閑地ならば、どこでも任意に使用せしめることとした。この結果クチン郊外には日の丸を樹て、空閑地耕作をするマライ人や支那人が隨所にみられるようになった。

尤も食糧増産といつても、この地方では米の急速なる増産は不可能なので、差し當り代用食たるサゴ澱粉(サゴ椰子の幹から採取するもの)甘藷の増産をはかる必要があるので、これらの價格をある程度吊上げ、これを半年間保障するなどの対策を實施してゐる。

**2 金融政策** クチンにあつたチャイタード銀行支店ほかに支那人銀行は閉鎖されたため、軍政部では自ら金融業務を開始した。預金については住民の貯蓄を奨励するために定期預金に三分(従来五厘)の利子を附し、又貸付は従来一割以上の高利であつたのを五分以下と定め、重要産業の開発には特に低利で融通することにしてゐる。

**3 物價対策** 皇軍のクチン上陸直後、軍政部では皇軍クチン占領の前日たる十二月二十三日の物價水準を絶對に引き上げないよう布告を發した。然るに數日ならずして約二倍の奔騰をみたので、更に布告を發し、違反者二名に數百ドルの罰金と懲役を課し、その上市内を引廻すなどの一罰百戒の處罰を行つた。この結果效果は觀面では物價は急速に下落、元の水準に達した。一方買溜、賣惜しみ、退藏なども嚴重に取締つてゐる。なほ、クチン、ミリなどの各都市に於ては、米、鹽、砂糖、小麦粉、ミルク、燈油、食用油の生活必需品について既に配給割當符制を實施してゐるので、物價の問題については殆んど心配はない。

**4 通貨対策** 通貨は軍票、現地通貨の二本建制がとられてゐるが、軍票に對する割引のないのは勿論、反對



に軍票は退蔵せられる。

### 5 決死の油田消火作業

サラワク王国のミリ油田から北へ海岸を二十五哩、ブルネイ王国にあるセリア油田は新鋭潑刺たる新興油田である。ブライト河を渡り油田會社のあつたクアラブライトの油地を過ぎ、海岸沿ひに舗装道路を走ると間もなく油田に入る。鐵塔が林立し送油管が幾條も走つてゐる。社員住宅が芝の上にスマートなバンガローを並べ如何にも完備した大油田であることを思はせる。この大油田も敵の手によつて破壊され今は空しい姿を横へてゐるが、皇軍採油部隊の油田再建工作の進むに従つて過去に數倍する殷盛を盛り返すであらう。海岸沿ひにある十四號井は物凄い勢ひでガスを噴き出してゐる、このセリア油田には二、三千ポンドの壓力で自噴する油井が三つあつて、その噴出するガスはルートン製油所へ送つて油にしたり、或はその強い自噴力を利用して他の自噴力の弱い油井の汲出を行ふために使用したりしてゐるが、敵は十二月八日この三つの油井にいづれも火を放つた。然し點火に成功したのは四十號井の只一つだけで十四號井は點火に失敗して瓦斯を噴き出しもう一つはオイルサンドを噴き出したため油井管が詰つて自然消火したのであつた。十四號井の近くに寄ると約二千ポンドの壓力で噴き出る力は地響を立ててゐる。瓦斯の高さは三十米位に上り邊り一面は霧がかつたやうになり木の葉は褐色に濡れてギラギラ光つてゐる。土も褐色の泥濘だ。而もこの瓦斯はガソリンを含んでゐるため、近くの舗装道路は溶ける。そのため自動車はスリップして動けないし、靴もめり込んで滑る、ガスのため眼鏡は曇る、この邊りの有様は全く油地獄を文字通り現出してゐる。十四號井の近くに四十號井がある白熱に燃ゆる赤道の太陽の下で約二十五米の焰を直線に上へ吐いてゐる。噴火口のやうな地響き、焰の熱度は十米位の近くで正に五十度この焦熱地獄に挑戦し

て皇軍勇士の必死の消火作業が行はれたのである。消火する前に先づ油井に取付けられてゐる鐵材を去除く、それでないと消火しても鐵材の熱度で再び發火するからである。この鐵材の除去のために勇士は焰の真下まで進んで鐵材にワイヤーを縛り付けるのである。軍服にザンブと水を溶びて濡れ鼠になると一目散に焰の下に走り、素早くワイヤーを鐵材にくくり付けて戻つて来るのだが、歸つて來た時は軍服はもうカラ／＼に乾いてゐる。この難作業を行つて消火に努めた結果、見事猛威を揮つてゐた火焰を消し止めたのであつた。また石油は海岸から五十メートルばかり棧橋を出し、そこに鐵塔を組み斜に二本の油井を掘り下げてゐる。波洗ふ海中に鐵塔の林立する風景も油田地帯特有の壯觀である。一般の油井はセメントを流し込んでゐる。しかし自噴の壓力の爲セメントは硬化せず、いまでもバルブを捻れば褐色の石油が勢よく出てくる。セリア油田は全く潑刺とした青年期の油田である。

### 6 復舊作業着々進捗

昭和十六年十二月十六日未明皇軍の精銳は疾風の如く英領ボルネオに無血上陸、油田地帯を確保、今やたくましく採油戦線は赤道の太陽の下に展開されてゐる。皇軍の占領したミリ、セリア兩油田は蘭領ボルネオのタラカン及びサンガサンガと共にボルネオの四大油田で、英國東亞艦隊の給油基地として重要な役割を果して來たのであるが、この日を境として兩油田は我が大東亞戰爭完遂の爲の給油基地となり、東亞の油田としての眞面目を發揮することになつた。今回のボルネオ作戦は、大東亞戰爭の重要な一動因となつた我が國への石油封鎖を、實力を以て打破奪還した資源作戦として劃期的な意義を持つたものである。かねて豫想された如く、敵はこの油田を我方に渡すまいとして三、四月も前から凡ゆる破壊の手を加へ、去る十二月八日、日英米開戦の報に接するや最後の止めを刺して逃げ出したのである。破壊の状況を見ると、



一、ミリ油田は既に青年期を過ぎ自噴する力なく、ポンプで汲み上げる方式を採つてゐるが、このポンプを破壊した上油井管にセメントを流し込んだ。

一、セリア油田は潑刺たる新興油田であるが、自噴の壓力の比較的弱い油井にはセメントを流し込み、自噴壓力の極度に強い三つの油井には火を放つた。三つのうち一つは點火に成功して盛んに燃え、一つは點火に失敗して盛んにガスを噴き上げ、一つはオイルサンドの爲油井管が詰つて自然に消火した。

一、ルートン精油所は送油管により送られて來たミリ、セリア兩油田の原油を精製する處であるが、その精油設備を破壊した上林立する貯油タンクを附近の要塞砲臺よりの砲撃または爆薬装置により爆破炎上せしめた。更にこの精油所から沖に碇泊するタンカーへ精油を積み込むため、約四杆の長さの海中給油パイプが設備してあるがその一部を爆破した。

一、ミリ、ルートン間、セリア、ルートン間の送油管も一部を破壊した。斯くして相當徹底して破壊を行つたが致命的でなかつたため、採油の再建は比較的容易である。ミリ油田などもセメントを流し込んでゐるが、勝手知つたものがやれば比較的容易にその復舊が出来る程度である。特にセリア油田は自噴性であるため、セメントを流し込んで下から湧き出て來る壓力で降下する暇がなく、開井すれば現に盛んに油が噴き出す程である。採油部隊は時を移さず活動を開始した。この部隊は〇〇隊及び民間技術者勞務よりなる資源開發部隊で、世界戦史に新しい頁を加へる特殊任務を持つものである。採油部隊は既にセリア油田に於て十二月二十五日激しく燃え上る油井の消火に成功したが、その優れた技術、携行せる器材及び現地に殘された豊富な設備により懸命の復活や新井の掘り探り、油送管の設備に全面的な活動を開始してゐるのである。

## 7 サラワクの華僑

サラワクに於ける華僑は總人口四十四萬三千人中の三割を占め主として廣東出身のもので農業移民として渡來し胡椒、ココナツトの栽培に従事してゐる。

十九世紀のはじめ舊蘭領ボルネオのサムバスにあつて「金」採掘中の華僑は鐵脈を追ふてサラワクに入りパウ地方に豊富な砂金床を發見してこの地方に入つたもので、現在は四千人に及んでゐる。

商業方面に於ては華僑は原住民相手の雜貨商、貿易商として獨占的地位を占めてゐる。

## 8 クチン住民代表宣誓

クチン州在住のダイヤ族、マライ人、印度人、華僑各代表二十五名は七月三十一日ボルネオ方面軍本部に參集、前田陸軍最高指揮官より訓示を受けたのち、各人種代表は、それ／＼宣誓を行ひ、日本に對する忠誠を誓つた。

9 サラワク王亡命 ダーウキン(濠洲)來電によれば英領ボルネオ、サラワク王チャールズ・ヴァイナー・ブルーツク(英人)は昨年末濠洲を出發、歸國の途にあつたが、途中蘭印のストラバヤにおいて自國が既に降伏したとの報道を手にして濠洲に亡命するに決し、再び十三日ダーウキンに到着した。

サラワク王國土を賣却 英領ボルネオのサラワク王國は我がクチン、ミリ等の攻略によつて今は完全に東亞のサラワクとして新しい出發をしてゐるが、最近に至りこの王國最後の王(英人)が、昨年二月同國を二十萬磅で英本國へ賣渡した契約書が王國政府の金庫から發見され、「サラワク人の爲のサラワク」を標榜してゐた英人國王の正體が如何なるものであつたが曝露されるに至つた。即ち昨年二月東亞に來た前東亞常駐相ダフ・クーバーはサラワクが英國の保護領でありながらその鎖國主義のため獨立國家的色彩があることは面白くないとして、これ



を英國の完全な直轄領土とするため國王に對し同國の買収交渉をした。彼の辣腕は成功して、同三月買収契約は成立したのであつた。チャールス・ヴァイナー・ブルック國王は三代に互る温情政策の假面をかなり捨て、遂にサラワクを賣つてしまつたのである。しかしこのことは人民には知らせず、同年九月二十四日のサラワク王國百年祭は盛大に取り行ひ、人民の目を晦ました上彼は濠洲に逃亡したのである。此の「國のない王様」は最近スラバヤに現れ、不敵にもサラワク王國は日本軍に抵抗し、その領土を保全してゐるとの噂ふべきデマ放送をしてゐた。また王妃なる者はカナダにゐるらしく、クチン王妃の經營してゐる映畫館シルヴィア・シネマは何時の間にか支那人に七萬弗ばかりで賣渡されてゐた。

## 第一節 北ボルネオ 其三(ブルネイ)

### 一、地 理

**位置、面積**、ブルネイはボルネオ島の西海岸に在る土王國で、北ボルネオとサラワク王國との間に介在し、英國の保護領となつてゐた國である。北緯四度五分―五度二分の間、東經百十四度七分―百十五度二十二分の間であり、全面積二千五百平方哩(六、四七五平方呎)、皇國の四國の約三分の一といふ小國であり、その海岸線は約百二十哩である。

海岸並に河川流域に小平地がある以外は、内地はジャングル若しくは丘陵地帯で、國境附近はサラワクのムル山系高原に連つてゐる。

### 二、歴 史

西曆十三、四世紀の頃は爪哇のマジャパイト國、マラツカ國等に對し朝貢をしてゐたのであるが、十六世紀に入つてサルタン・ナゴダの當時、一時國勢大いに振ひ、ボルネオ島の北海岸全部、全スールー島及び比律賓群島の一部をも領有するに至つた。歐洲人で初めてブルネイを訪ひ、同國を歐洲に紹介したのは一五二一年に來島したピガフェッタなる者で、同人の往訪記によると、當時の首府ブルネイ市は人口約三萬五千、宮殿は輪輿の美類なく、市街の壯麗驚くべきものがあつたといふ。右によつて見るも、當時のブルネイ國が如何に殷盛を極めてゐたが想像される。然し其後衰退して十九世紀の中葉には領土の大半を、英人ブルック及び北ボルネオ會社に蠶食されるに至り、一八八八年英國の保護領となつて僅に餘喘を保つだけとなつた。爾後外國との交渉は英國政府によつて決せられることになつて今日に及んだ。

### 三、産 業

#### 農 業

イ、ゴム 總栽培面積約一四、〇〇〇エーカーで五、〇〇〇エーカーは歐人經營、其他は原住民の經營である。ゴム價の高低によつて一定しないが、輸出は、平均年一、六〇〇噸前後、價額六七二、〇〇〇弗内外である。

ロ、サゴ 原産植物で、その生産品たるサゴは原住民の主要食料である、年生産平均二、五〇〇噸、六、〇〇〇弗である。



ハ、米 消費は旺盛であるのに生産は消費の六分の一に過ぎない有様で、政府は米種、米作法の改良に指導と奨励を怠らないのであるが、その實效を擧げてゐない。米田面積五、〇〇〇エーカー、收量六〇〇、〇〇〇ガンタ、輸入量平均約四八〇、〇〇〇擔、一八〇、〇〇〇弗である。

當ブルネイは開發せられてゐる地域は未だブルネイ附近並海岸地方の一部に過ぎず内地はジャングルの儘であり、政府は極力開發奨励に當り、土地拂下手續の如きも至極簡易にしてその料金も頗る安價であつたのである。原住民が規則的勞働に向かぬ爲、支那人又は印度人を使用してゐるのであるが、近年は印度人の優秀なることが知られ、農園勞働者として支那人を凌駕するようになった。

#### 四、林業

イ、ジェルトン これはゴムの一種であるが、これの採取特許料が政府の森林收入の大部分を占めてゐた。

ロ、木材 現在までは海外輸出がほとんどなく、國內用とし硬材が少しく研出されてゐるに過ぎないが、廣大なる森林を包蔵してゐるのであるから、その將來は期待される。

#### 五、漁業

漁業はブルネイ住民大多數の生業で、鮮魚は大量が市場消費に當てられてゐる。海外輸出は乾蝦で、四五〇擔一五、〇〇〇弗である。

#### 六、鑛業

イ、石油 ブルネイに於て石油が始めて發見せられたのは一九一四年で、それはベライト郡ラビであつた。これに對して相當力を入れたが結局成功せず、其の後同海岸地方を極力試掘してゐるうちにクアラベライトの北西約十哩のセリアに油田を發見した。この油田はサラワクのミリ油田に匹敵し得る良好なる油田なることが判明し、一九三二年にはサラワク領ルートン精油所に輸送管が完成するようになり、逐年發展してその湧出量は原油四五〇、〇〇〇噸、天然瓦斯八、〇〇〇、〇〇〇立方呎にも達するようになった。

ロ、石炭 埋藏は廣範圍に亘つてゐるが、大規模採炭には不適なようで小規模經營が行はれてゐる。年産八五〇噸内外で領内で消費されてゐる。

#### 七、工業

イ、カツチ これが唯一の工業で、染料及び鞣皮用として使用されてゐる。しかもこれに用ひる樹皮は他のボルネオ沿岸沼地から供給を仰いでゐたのである。

ロ、美術工藝品 主たるものは銀器、眞鍮器、絹サロン、綿サロンであるが、銀器は古來より工藝品中の最重要の地位を占め、其の精巧さは、馬來の産品を凌駕してゐたので、海外輸出は八〇、〇〇〇弗を起えてゐた。眞鍮器は實用品が多い。



八、貿易

輸出		輸入	
原油	七五%	機械	一六%
ゴム	一五%	米	七・七%
カツチ	四・九%	食料品	四・八%
ガス	一・八%	煙草	三・九%
ジエルトン	一・二%	石油	三・四%
雑	二・一%	綿製品	三・一%
計	一〇〇・〇%	木材	二・二%
年平均	三、六〇〇、〇〇〇弗	砂糖	二%
		自動車	一・五%
		雑	五五・四%
		計	一〇〇・〇%
		年平均	二、五〇〇、〇〇〇弗

九、交通

イ、道路 全国を通じ、道路の完全なるものはなく、唯ブルネイからトウトンへ原始道路があり、渡船によつて海岸傳ひに、クアラベライト迄道路が通じてゐる。海岸道路は大體に通じ得るが、豪雨がれば交通杜絶となる。自動車の發達に伴つて道路の完備が緊急とされてゐるが、必要な石がないのであまり進捗してゐない。

ロ、海運 船底十二呎以下の船舶であれば、大抵の場合はブルネイ港に入港し得る。ブルネイ港は一九三〇年に竣工されたもので、コンクリートの浮船渠の装置しある鐵筋コンクリート棧橋が設備されてゐる。

舊シンガポールとの間にはラプアンを経由して毎週一回の航路があり、海峽汽船會社はモーター船を出しブルネイ、クアラベライト、リムバン間を定期に運行してゐた。別にブルネイ、領内の諸港及び上流河港との間には準定期的にモーター・ランチを就航せしめてゐた。

ラプアン島はブルネイの東北四〇哩の海上に横はる。元英領の小島で、舊シンガポールとブルネイとを連結する交通の要衝に當つてゐた。

ハ、電話

ブルネイには電話の設備があり、近隣農園に區域を擴張しブルネイ、トウトンの間には電話線の架設も見てゐた。石油會社には交換局が維持されセリア、ミリとも連絡がとれてゐた。

ニ、無線電信

ブルネイ、ラプアン、ベライト、テムブロンには無線電信局が設備されてゐる。

九 交通



## 一〇、主要都市

**ブルネイ** ブルネイ全體を通じて都市形態を備へてゐる唯一の都邑で別名はダル・ウル・サラム(平和の町の意)と稱せられる。ブルネイ市は人口約一萬二千、昭南港から七五八哩の地點にあり、ムアラ口より十二哩の上流にある。市は新舊の兩市街に分れ、舊市街は水上に居を構へた土着民部落で、新市街は埋立地上に建設され、政廳、店舗、住宅が多數存してゐる。

## 一一、ブルネイ王國の近狀

### (一) 一般

長い間イギリスの搾取下に痛めつけられて來ただけに、このブルネイのサルタンの親日熱は強い。かつてはブルネイの勢威は北はゼツセルトン(アビ)から南はクチンの南方に及び、ボルネオの西部に大きく覇を唱へてゐたのであるが、サラワクに蠶食されて、二つに中部をちぎられた情ない小さな國となり、英國の支配下に辛うじて保護王國の名と形骸だけをよめて來た。

今回軍當局によつてブルネイは美里州の中に包含され、兒玉魯一長官の下にブルネイ縣となり、縣知事に木村強氏が任命された。さうして統一されたボルネオの一部として更生に邁進してゐる。

保護王國ブルネイの財政的存立の基礎は從來セリア油田の原油輸出税と一般的輸入關税に據つてゐた。セリア原油はルートンの精油所に送られる時、一噸五弗の輸出税が課せられ、セリア油田の發展と共に之がブルネイ王

國の主要財源となつてゐたものである。

木材の豊富なことはボルネオの他の地區も同一で、タンニンの原料たるカツチ工場並に木材工場は今後の發展を期待され、市近傍のブルクトンの炭坑は近く開發されるべきこととなつてゐる。

ブルネイ市は水上の町である。ブルネイ河を溯ること六哩、小丘の間、河幅が擴つて沙洲が廣大なところ、砂洲を中心に立ち竝んだ家屋の群、ここはかつてジャングルの猛獸等と戦つたブルネイ國の勇士が安全な住居として選んだ地で、それが後に華麗な市街となり、事務所、學校、官衙、華僑有力者の邸宅などが續いてゐる。しかも、人口一萬五千人のうち、一萬三千餘は水上生活者で、一生土を踏まぬ者も多いといはれる。しかし、近代都市としては餘りにも川が淺くて水利の便が悪い。サルタンの邸はその水上都市を見下す小丘の上に白く建ち、緑のジャングルの間に際立つてゐる。

### (二) ブルネイの華僑

このブルネイの華僑は他のボルネオの國々よりは微力で、四千百人餘、總人口の一二%に過ぎない。數に於てはマライ人の二萬九千人に比べ劣勢であるが、商人として労働者としての活動は他を壓してゐる。

### (三) 若きブルネイ國王と劇的握手

ボルネオ作戦中の皇軍は昭和十六年十二月三十一日ブルネイ王國の首都ブルネイに堂々平和進駐し、翌一月一日國王は大日本帝國に忠誠を誓ひ、その命に服すべき旨の誓約書に署名した。此のブルネイ王國は十六世紀頃までは現在の英領ボルネオ全地域及び比島の一部までも領有、勢威を振つたものであるが、今は我が國の四國の三分の一程度しか領有せず、英國の壓制下に僅かに餘命を保つてゐたサルタンの小國である。此のサルタン王國も



今や英人の擄取から解放され、我が日本の指導下に希望輝やく更生の歴史に入つたのであるが、その頁を開いた十二月三十一日我が平和進駐は恰もお伽噺の中に入る様なロマンチックなものであつた。三十一日朝我が部隊は既に占領せる油田の町セリアを出發トラックの車輛を連ねて進撃した。ボルネオの西岸は路面が堅く自然のベームメントをなしてゐる。トラック部隊は海風を切つて快適なドライブを続ける。途中ダナウ河畔の小さい町トウトンを通過すると、この町は早くも日の丸を掲げてマライ人の町民は歡呼して部隊を迎へる。此處から舗装道路に快速の進駐は続く。午後二時首都ブルネイの郊外へ着くとゴム林の中の路上に若きブルネイ國王が出迎へてゐる。金色の模様のある黒色の上着、黄色のズボン、白い袴、額にはターバンを巻き、金の飾りを付けた短い太刀を持つた盛装である。サルタンは母君や一族のものを隨へ、我が〇〇部隊長の前に進み出で黒い手を差しのべたが、ゴム林を背景にした此の光景こそまことにお伽噺の實演その儘である。此所からサルタンを先頭に首都ブルネイの町に入る。小王国ながら僅か十分間で我が好意の前に總てを投げ出して匍伏した事は大東亞戰爭史にほゞ笑ましいエピソードを織込んだものであらう。明くれば紀元二千六百二年の元旦、我が軍はアスタナ(王宮の事)に至り、サルタンに對し帝國に忠誠を誓ふ誓約書に署名せしめた。サルタンは皇軍歡迎のため正午〇〇部隊長を王宮に招き茶會を催した。赤道の太陽燃える正月元旦ブルネイ河畔の美しい水郷を目下に見おろす岡の上のアスタナに和やかなお茶の會は約一時間餘続いた。ブルネイは繪のやうな町である。ゴム林と翠の芝生が豊かである。河の上にも町がある。ホテルと劇場と政廳と商店が箱庭のやうに並んでゐる。郊外の丘の中腹には赤い屋根の住宅が並んでゐる。水道も電燈もある。恐らく東洋で最も美しい小都會の一であらう。

昭和十八年八月廿七日印刷  
昭和十八年八月卅一日發行

臺灣總督府外事部

臺北市榮町一丁目二十八番地

印刷人 中村誠徳

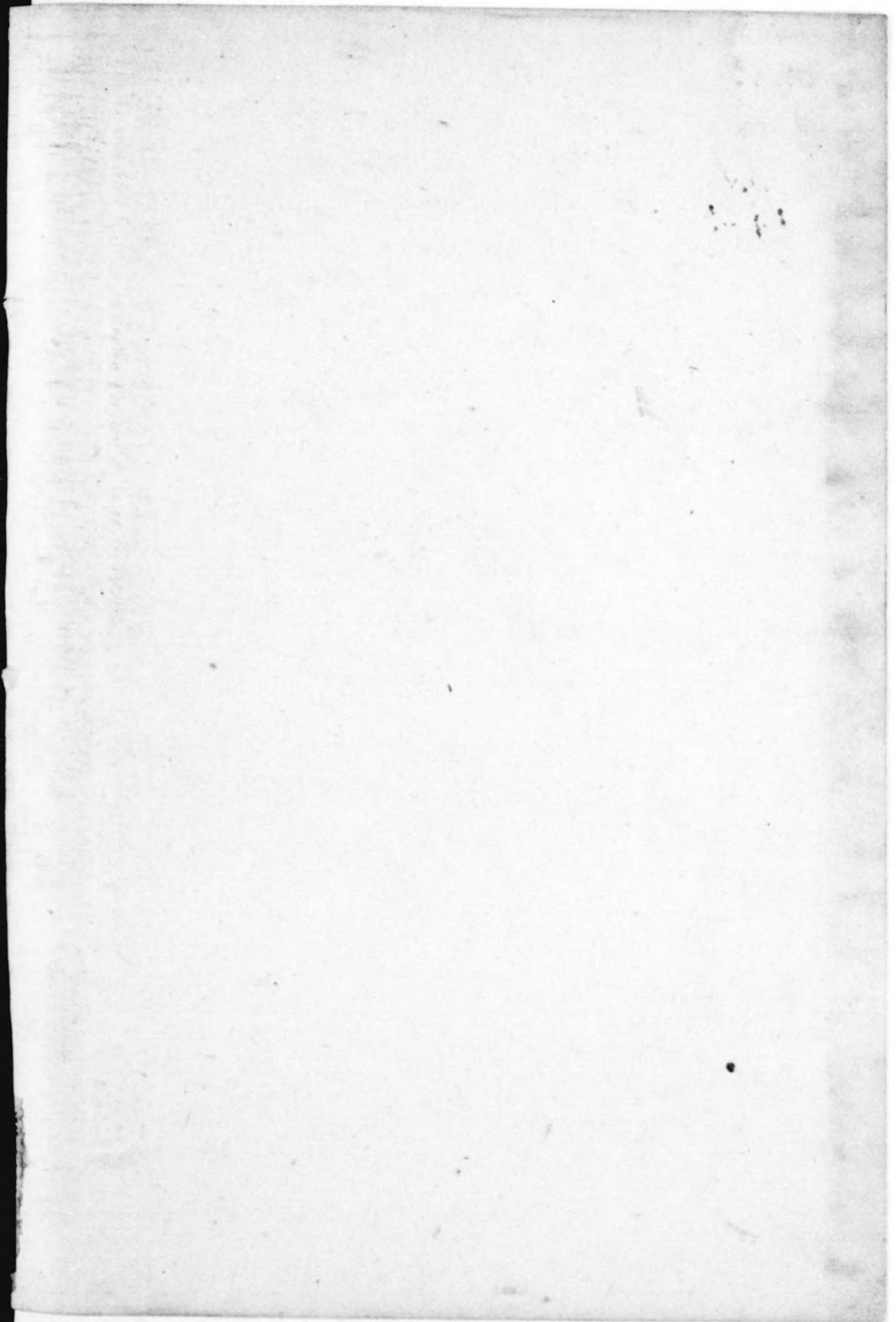
臺北市榮町一丁目二十七番地

印刷所 松浦屋印刷所











終

